

コロナ禍前後の妊娠出産 アンケート結果 (完成版)

コロナ禍での妊娠・出産の状況、どう思う？

妊産婦（夫）・子育て世帯全員アンケート



NPO法人ファザーリング・ジャパン
スリール株式会社

2020.9.7

平時と比してコロナ禍の妊娠・出産の過酷な現状が浮き彫りに 新しい生活様式にあった妊娠出産環境の整備が急務

「産後入院中のパートナーや家族の面会」実現率は平時と比較し71%減
「希望していたのに実現できなかった主な理由」断トツ1位は「コロナ禍での中止・延期」87%

新型コロナウイルス禍において、これまで妊娠出産期に平時であれば当たり前に叶っていたことが様々な制約により実現が難しくなっています。例えば、妊婦検診へのパートナー同伴の禁止、両親学級の中止や延期。出産当日はパートナーの立ち合いができないどころか、マスクを装着しての出産を余儀なくされる病院もあると聞きます。

これから長年続いていく子育てのスタートを一緒に経験できず、パートナーが置き去りになることで、その後の子育てを母親一人だけで行うことも起こりえます。

そこで、コロナ禍前後の妊産婦（夫）の環境変化を把握すべく、NPO法人ファザリング・ジャパンとスリール株式会社で共同アンケートを実施しました。

これから誕生する赤ちゃんを迎える家族に必要な経験は何か、その経験の機会とコロナ禍における安全確保の両立はどんな工夫で実現できるのか。

現在の妊産婦（夫）だけではなく、今まで子育てを経験した全ての方に答えていただき、新しい生活様式の中でも安心して新しい命を家族で迎えらるる環境をみなさんと一緒に実現していきたいと考えています。

調査結果から、

- ◎ 「コロナ禍出産」の希望者に対する実現率（Q3）をみると「コロナ前出産（平時）」と比較し、「産後入院中のパートナーや家族の面会」71%減、「病院・産院等の両親学級等を受講」58%減、「妊婦健診にパートナーや家族の同伴」55%減、など病院関連の妊娠出産環境が顕著に悪化している。
- ◎ 「コロナ禍出産」においても平時と同様に、妊娠出産において希望すること（Q3）や自身や家族等にとって重要と思うこと（Q5）に大きな差はみられなかったが、「里帰り出産」だけは、「コロナ前出産」希望者が43%に対して「コロナ禍出産」希望者は25%と大きく減少しており、県をまたいでの移動制限が「希望」にも大きく影響していると推測される。
- ◎ 「コロナ禍出産」の希望者に対する実現率（Q3）で平時を唯一上回ったのは「父親の育児休暇・休業取得」（コロナ前出産58%、コロナ禍出産67%）であり、病院などに頼れない環境下でパートナーの育児取得が支えの1つになっていると推測される。
- ◎ 「希望していたのに実現できなかった主な理由（Q4）」では、平時では一位の「仕事が忙しいから」でも30%だったが、「コロナ禍出産」での一位「コロナ禍での中止・延期」は87%と断トツの回答選択率であり、コロナ禍の影響が顕著である。
- ◎ 「コロナ禍で工夫してでも実施すべきもの（Q6）」で平時と「コロナ禍出産」ともに高かったのは、病院関連の「パートナーや家族の立ち合い出産」「産後入院中のパートナーや家族の面会」であったが、「出産後の産後ケアサポート（親族含む）」「父親の育児休暇・休業取得」では「コロナ禍出産」より子育て経験者の「コロナ前出産」で顕著に高かった。

などがわかりました。

また、「第一子を迎えるご家族へのオンライン両親学級の提供」「感染予防対策を工夫した上での立ち合い出産の実現」の実現について90%を超える賛同をいただいております。新しい生活様式の中でも新しい命を家族で迎えらるる環境の実現に向けた活動に取り組んでまいります。

アンケート概要

1. 調査目的

新型コロナウイルス禍での妊産婦（夫）の実態を調査するとともに、コロナ禍以前に妊娠出産を経験した子育て家庭のおかれていた環境下と比較し、多様な経験や考えを聞くことで、新しい生活様式の中でも安心して新しい命を家族で迎えらるる環境を実現する提言を行う。

2. 調査方法

調査方法	インターネットリサーチ
実施期間	2020年8月11日～23日
調査対象者	コロナ禍における妊婦およびその配偶者、子育て中の男性女性
調査エリア	全国
有効サンプル数	558

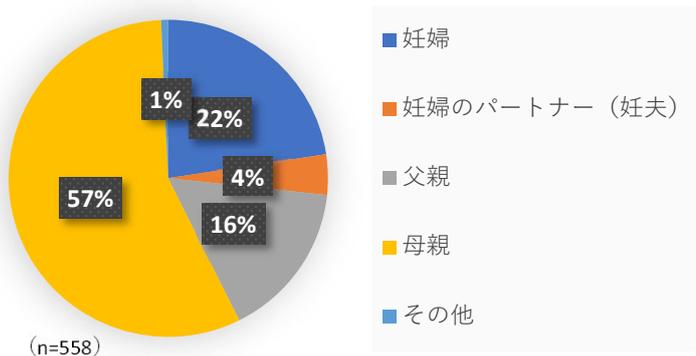
- (1) コロナ禍とは、2020年3月～現在（2020年8月時点）を指しています。
- (2) 緊急事態宣言下とは、2020年4月7日～5月25日を指しています。
- (3) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (4) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100.0%として算出した。
- (5) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100.0%を上回ることがある。
- (6) グラフの選択肢の表記は、表示の都合上、選択肢を省略している場合がある。

〈本件に関するお問い合わせ先〉
NPO法人ファザーリング・ジャパン
担当理事：塚越
gyoumu@fathering.jp

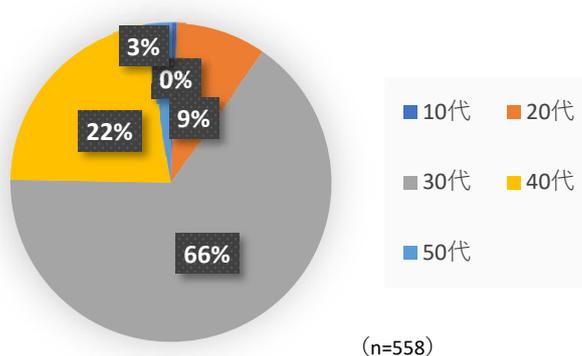
回答者属性（概要）

回答者の属性は以下のようになっている。

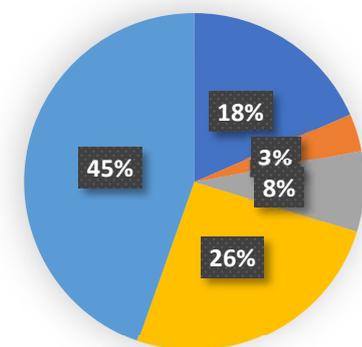
性別



年齢



妊娠・出産時期



- 2020年8月以降（現在妊娠中）
- 2020年4月～5月（緊急事態宣言中に出産された方）
- 2020年3月～7月（緊急事態宣言下を除く・コロナ禍に出産された方）
- 2017年～2020年2月（現在第1子が3歳までの方）
- 2016年以前（現在第1子が4歳以上の方）

**このレポートでは便宜的に
以下のように分類する**

- コロナ禍出産
- コロナ前出産

（コロナ禍出産n=166、コロナ前出産n=392）

居住地

北海道	2%
東北	1%
関東	3%
京浜(1都3県)	69%
(内訳)	
埼玉県	4%
神奈川県	14%
千葉県	6%
東京都	45%
北陸	2%
中部	8%
近畿	7%
中国	1%
四国	1%
九州・沖縄	6%

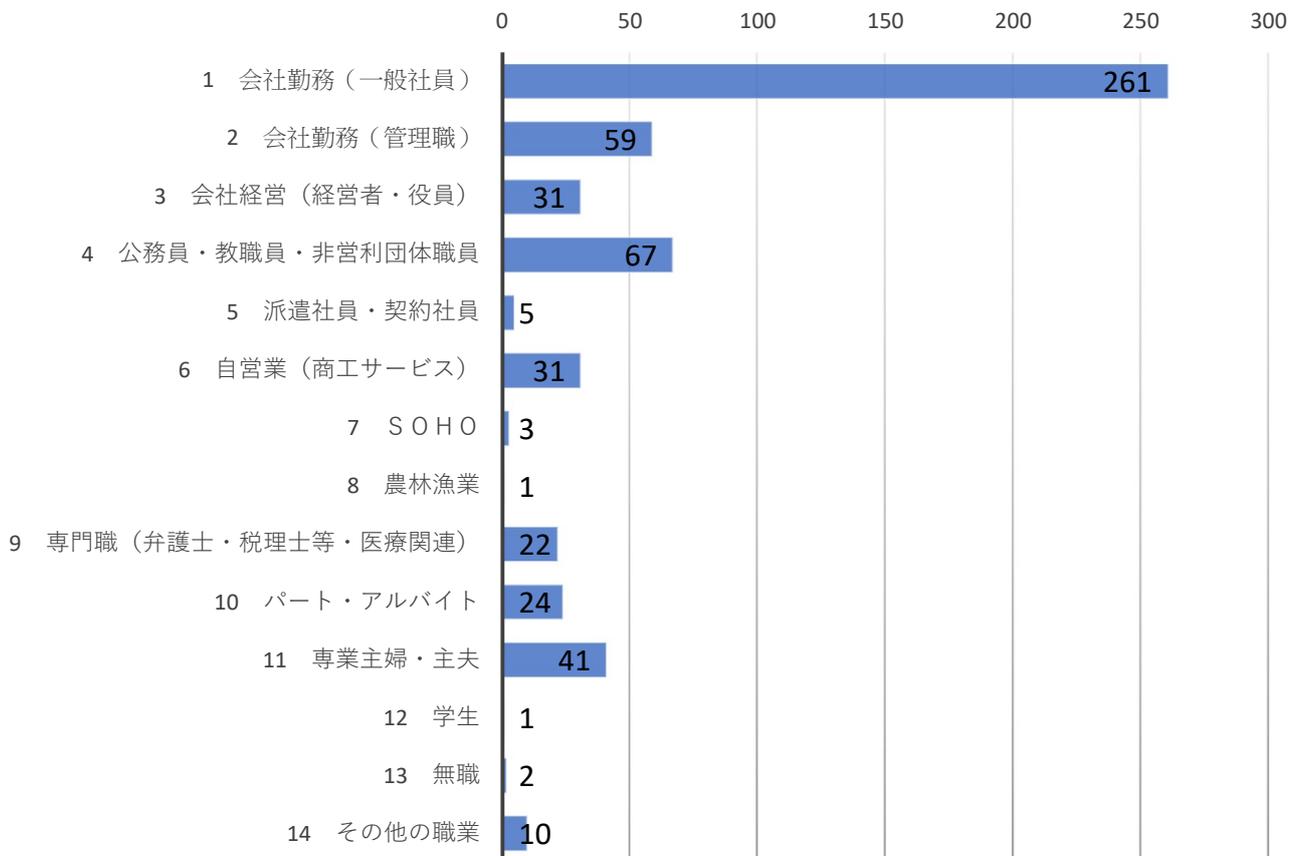
(n=545)

第一子出産地

北海道	3%
東北	3%
関東	5%
京浜(1都3県)	57%
(内訳)	
埼玉県	4%
神奈川県	11%
千葉県	5%
東京都	36%
北陸	4%
中部	9%
近畿	9%
中国	2%
四国	2%
九州・沖縄	7%

(n=525)

職業



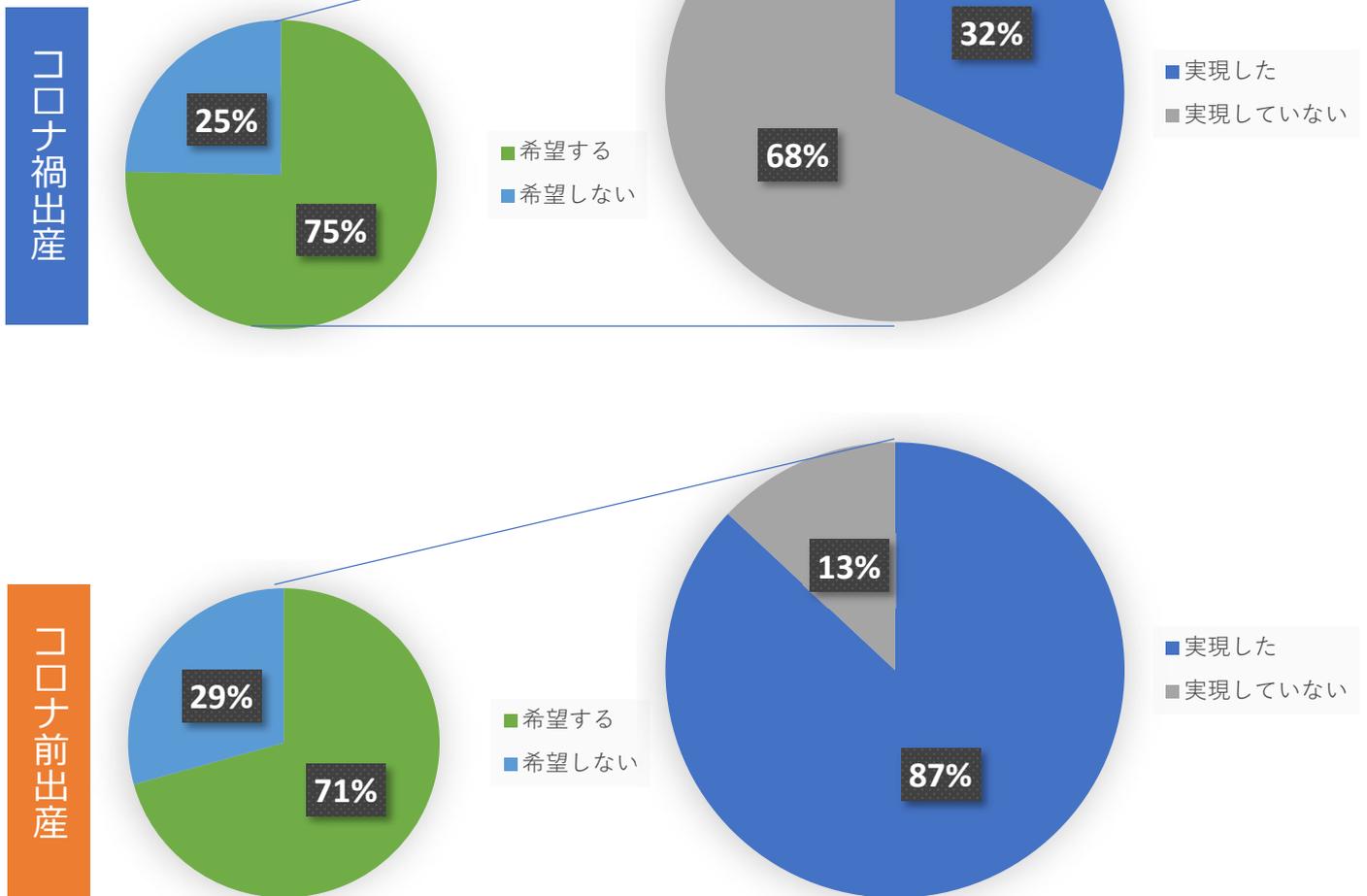
(n=558)

希望と実現「妊婦健診にパートナーや家族の同伴」

Q3「あなたが、あなたの（あなたのパートナーの）第一子妊娠期間中に
 ・「希望」しているもの（していたもの）をすべて回答ください
 ・「実現」できそうなもの（できたもの）をすべて回答ください」について、
 「妊婦健診にパートナーや家族の同伴」をみると、コロナ禍前後で「希望」にほとんど差はないが、希望者における実現率を見てみると、「コロナ前出産」では87%が実現しているのに対して、「コロナ禍出産」は32%しか実現していないことが分かった。

妊婦健診にパートナーや家族の同伴

希望者の実現率

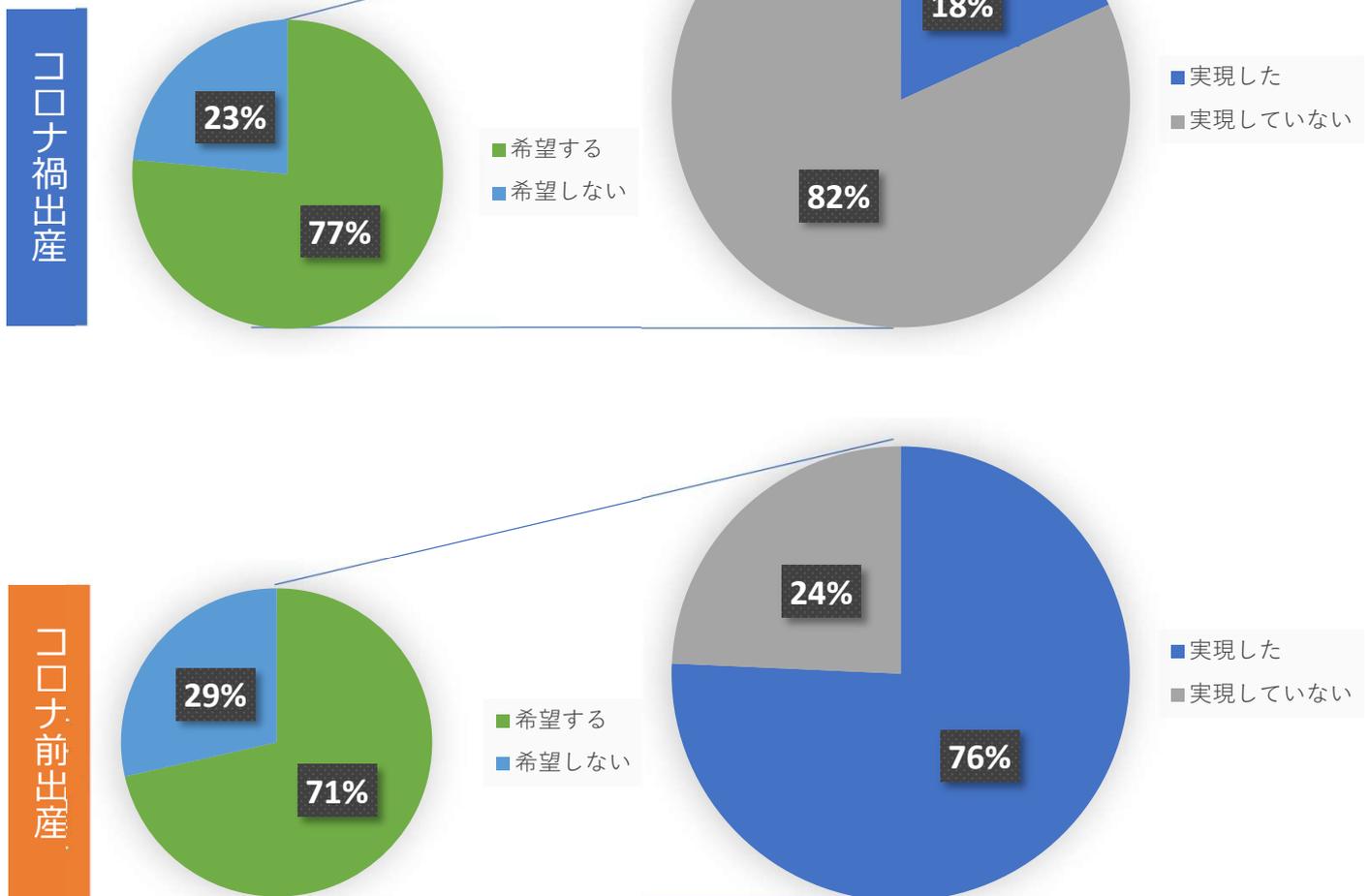


希望と実現「病院・産院等の両親学級等を受講」

Q3「あなたが、あなたの（あなたのパートナーの）第一子妊娠期間中に
 ・「希望」しているもの（していたもの）をすべて回答ください
 ・「実現」できそうなもの（できたもの）をすべて回答ください」について、
 「病院・産院等の両親学級等を受講」をみると、コロナ禍前後で「希望」にほとんど差はないが、希望者における実現率を見ても、「コロナ前出産」では76%が実現しているのに対して、「コロナ禍出産」18%しか実現していないことが分かった。

病院・産院等の両親学級等を受講

希望者の実現率

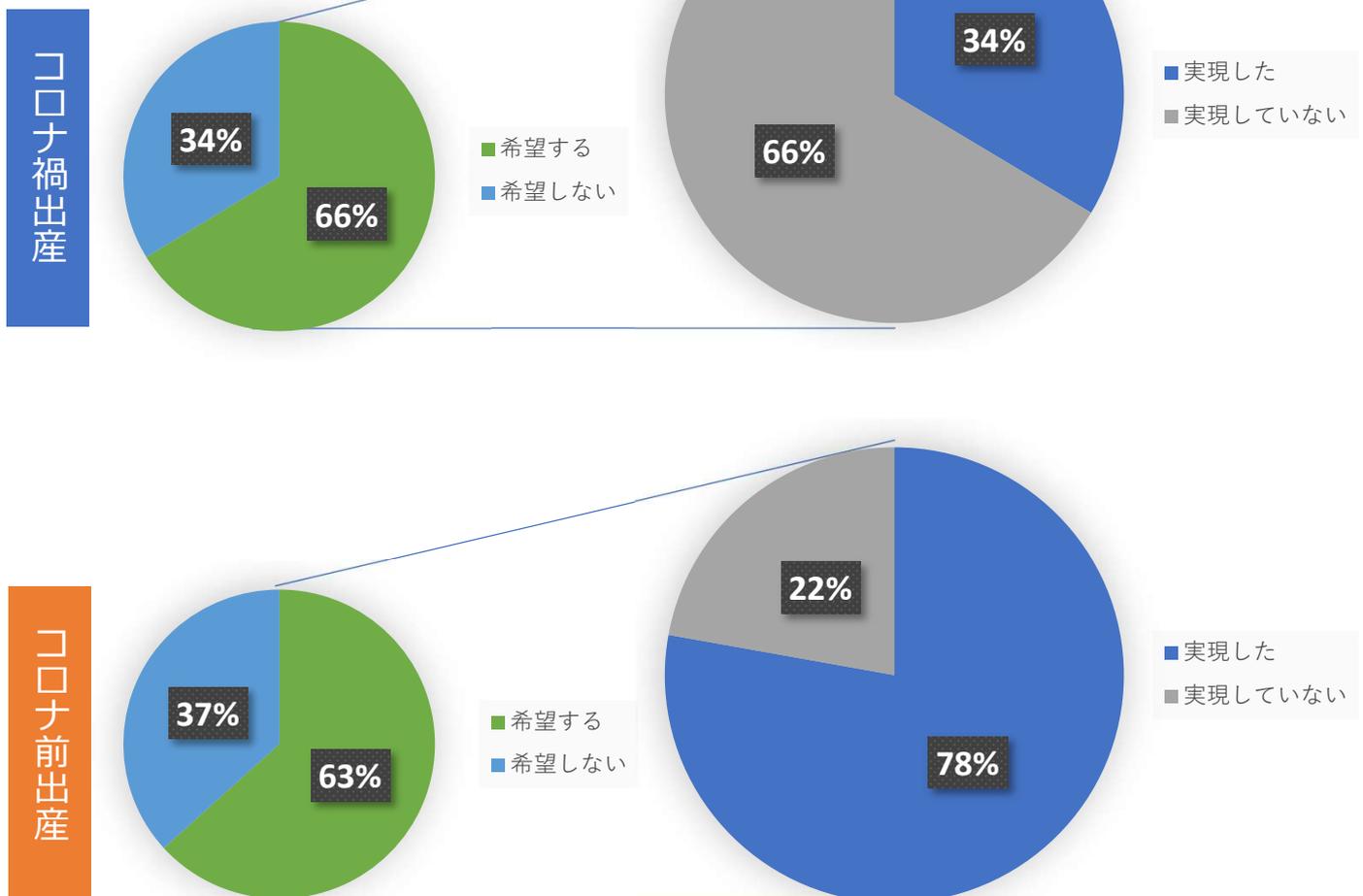


希望と実現「自治体の両親学級等を受講」

Q3「あなたが、あなたの（あなたのパートナーの）第一子妊娠期間中に
 ・「希望」しているもの（していたもの）をすべて回答ください
 ・「実現」できそうなもの（できたもの）をすべて回答ください」について、
 「自治体の両親学級等を受講」をみると、コロナ禍前後で「希望」にほとんど差はないが、
 希望者における実現率を見てみると、「コロナ前出産」では78%が実現しているのに対して、
 「コロナ禍出産」34%しか実現していないことが分かった。

自治体の両親学級等を受講

希望者の実現率

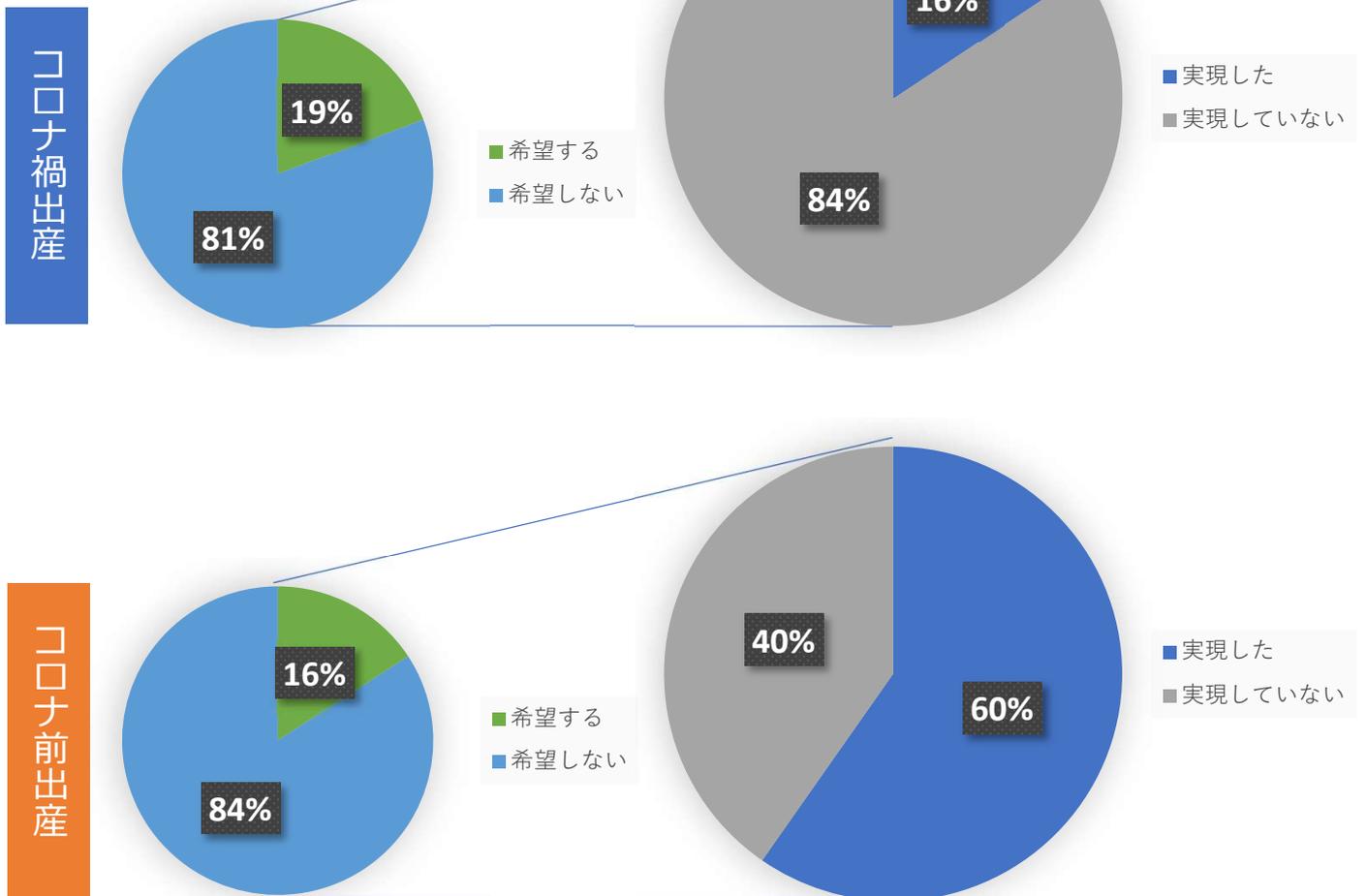


希望と実現「民間企業・団体等の両親学級等を受講」

Q3「あなたが、あなたの（あなたのパートナーの）第一子妊娠期間中に
 ・「希望」しているもの（していたもの）をすべて回答ください
 ・「実現」できそうなもの（できたもの）をすべて回答ください」について、
 「民間企業・団体等の両親学級等を受講」をみると、コロナ禍前後で「希望」にほとんど差はないが、希望者における実現率を見てみると、「コロナ前出産」では60%が実現しているのに対して、「コロナ禍出産」16%しか実現していないことが分かった。

民間企業・団体等の両親学級等を受講

希望者の実現率



希望と実現「パートナーや家族の立ち合い出産」

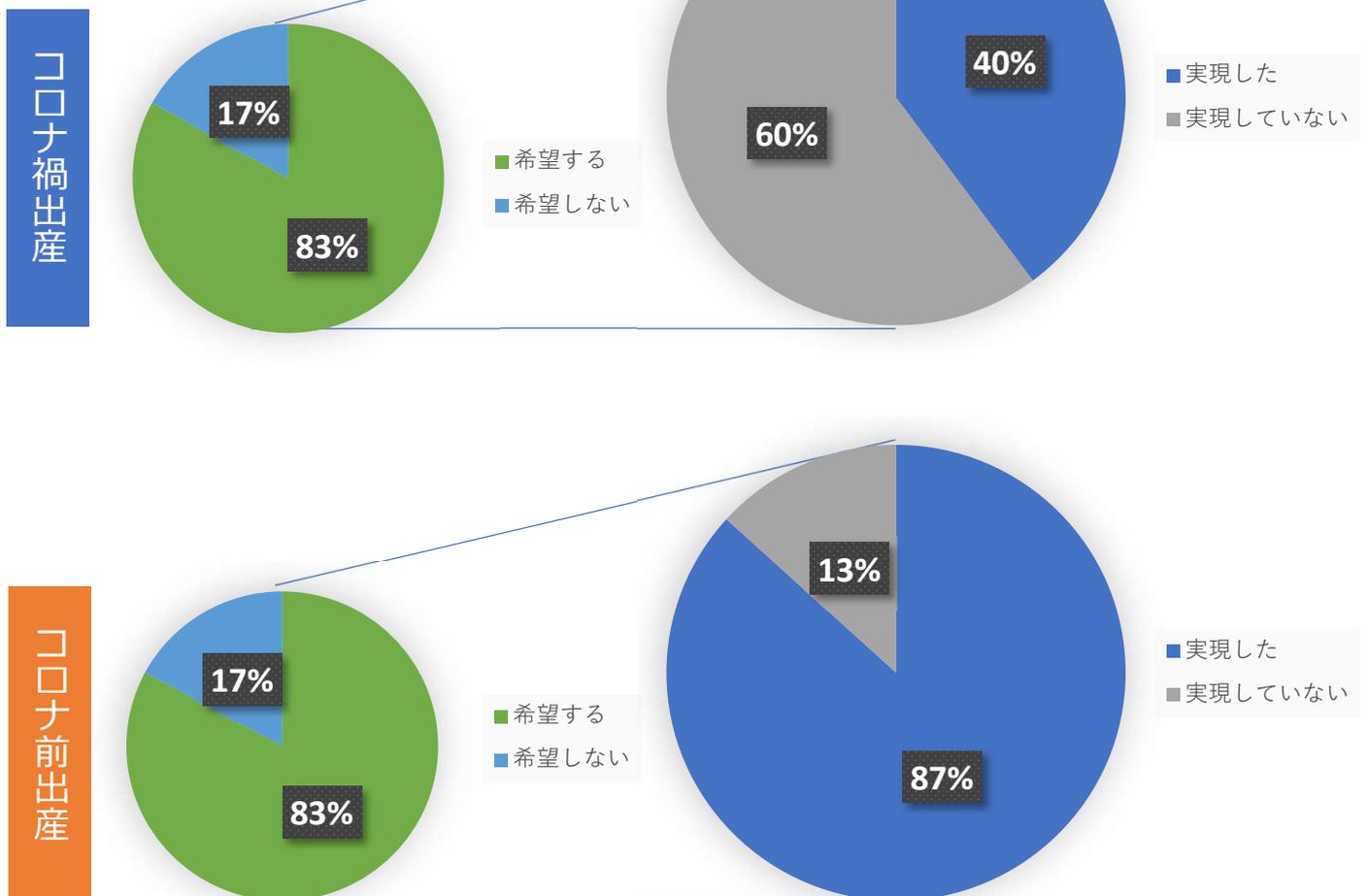
Q3「あなたが、あなたの（あなたのパートナーの）第一子妊娠期間中に

- ・「希望」しているもの（していたもの）をすべて回答ください
- ・「実現」できそうなもの（できたもの）をすべて回答ください」について、

「パートナーや家族の立ち合い出産」をみると、コロナ禍前後で「希望」に差はないが、希望者における実現率を見てみると、「コロナ前出産」では87%が実現しているのに対して、「コロナ禍出産」40%しか実現していないことが分かった。

パートナーや家族の立ち合い出産

希望者の実現率

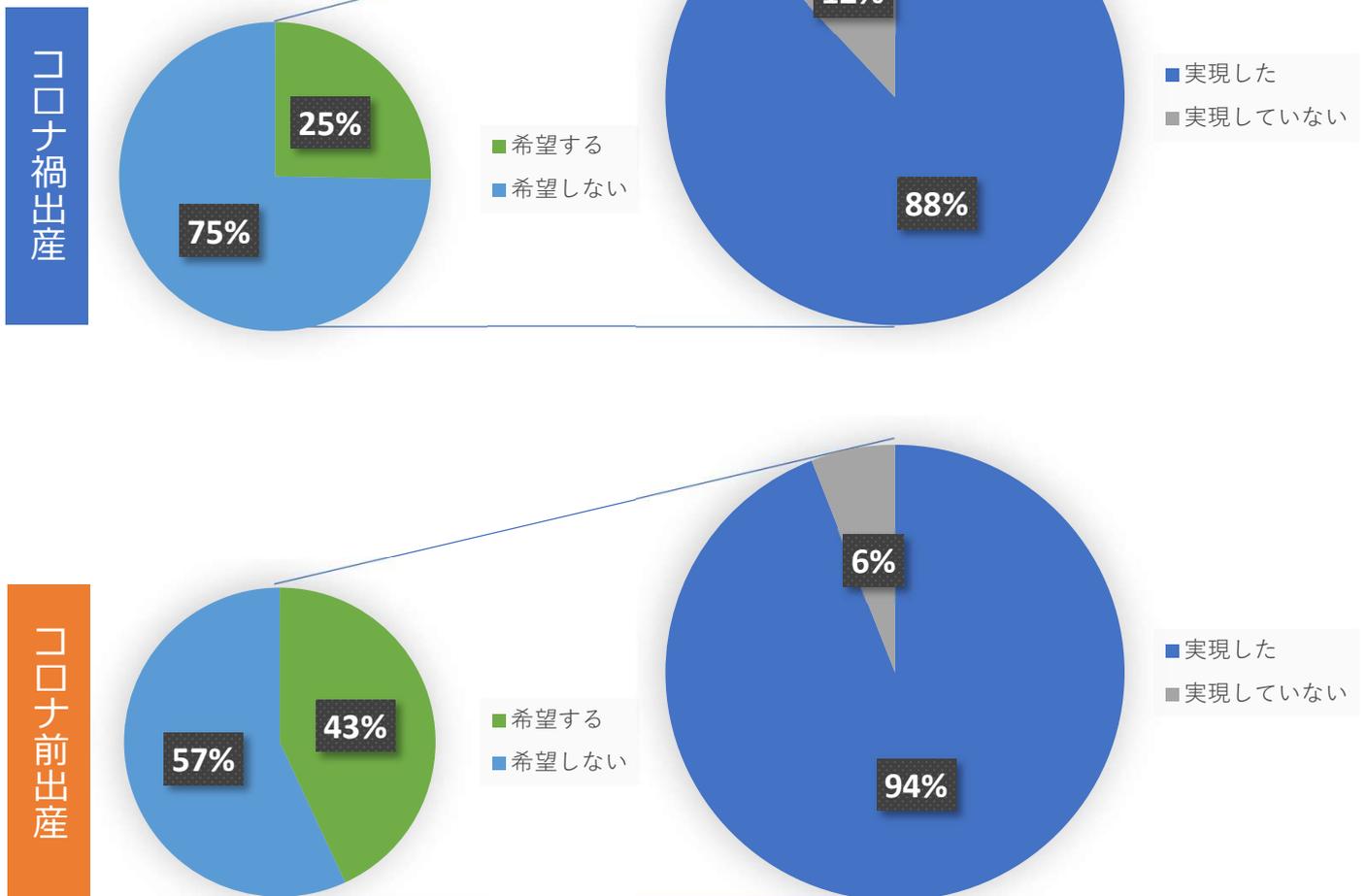


希望と実現「里帰り出産」

Q3「あなたが、あなたの（あなたのパートナーの）第一子妊娠期間中に
 ・「希望」しているもの（していたもの）をすべて回答ください
 ・「実現」できそうなもの（できたもの）をすべて回答ください」について、
 「里帰り出産」をしてみると、「コロナ前出産」では43%が希望しているが、「コロナ禍出産」
 では25%にとどまっている。県をまたいでの移動制限が「希望」にも大きく影響していると推測
 される。
 また、希望者における実現率を見てみると、「コロナ前出産」では94%が実現しており、「コロ
 ナ禍出産」では88%であった。

里帰り出産

希望者の実現率

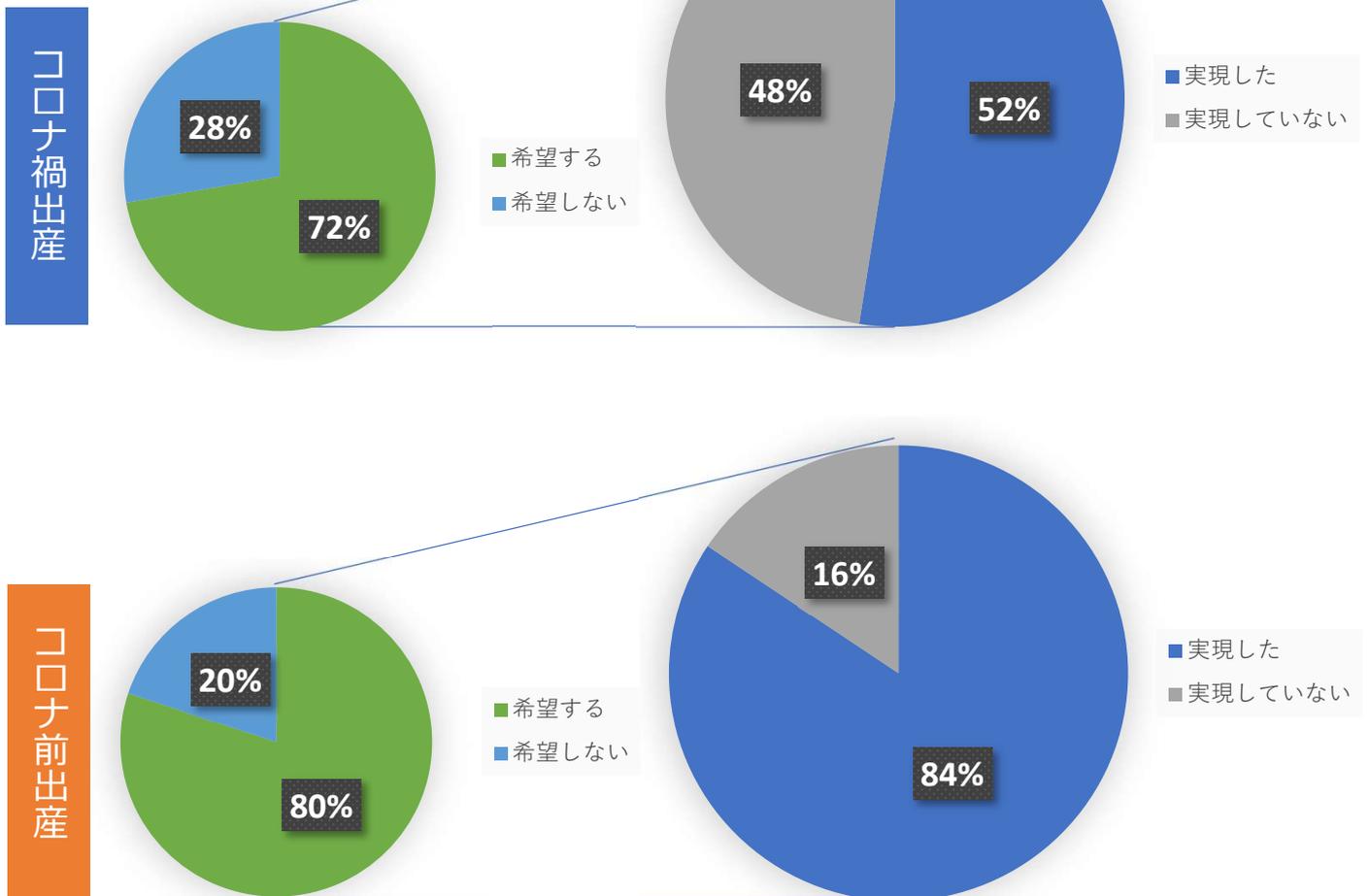


希望と実現「出産後の産後ケアサポート（親族含む）」

Q3「あなたが、あなたの（あなたのパートナーの）第一子妊娠期間中に
 ・「希望」しているもの（していたもの）をすべて回答ください
 ・「実現」できそうなもの（できたもの）をすべて回答ください」について、
 「出産後の産後ケアサポート（親族含む）」をみてみると、コロナ禍前後で「希望」にほとんど
 差はないが、希望者における実現率を見てみると、「コロナ前出産」では84%が実現しているの
 に対して、「コロナ禍出産」52%にとどまった。

出産後の産後ケアサポート（親族含む）

希望者の実現率

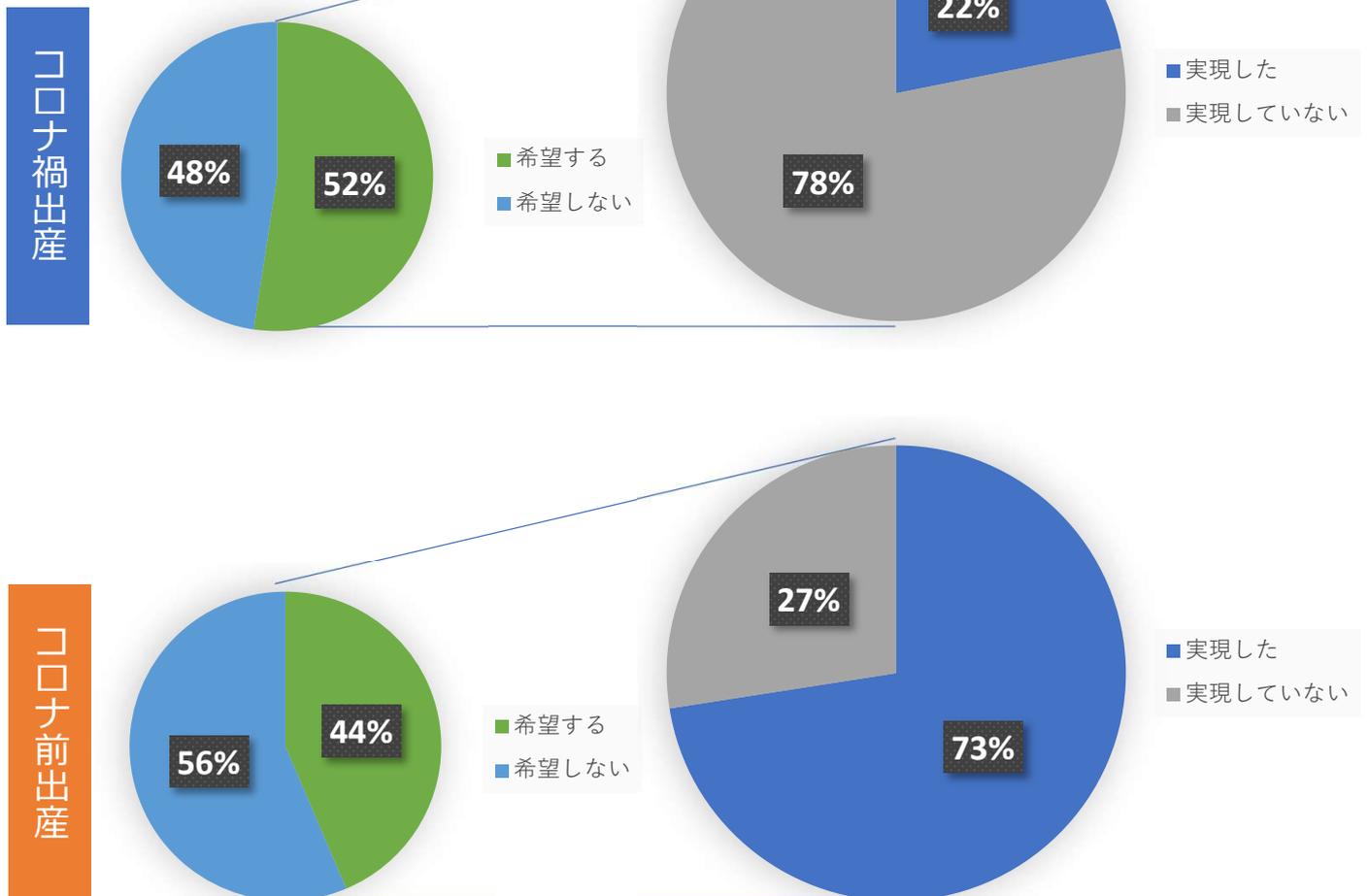


希望と実現「マタニティ・エクササイズ（運動・ヨガ・スイミング）」

Q3「あなたが、あなたの（あなたのパートナーの）第一子妊娠期間中に
 ・「希望」しているもの（していたもの）をすべて回答ください
 ・「実現」できそうなもの（できたもの）をすべて回答ください」について、
 「マタニティ・エクササイズ（運動・ヨガ・スイミング）」をみると、コロナ禍前後で「希望」にほとんど差はないが、希望者における実現率をしてみると、「コロナ前出産」では73%が実現しているのに対して、「コロナ禍出産」22%しか実現していないことが分かった。

マタニティ・エクササイズ（運動・ヨガ・スイミング）

希望者の実現率

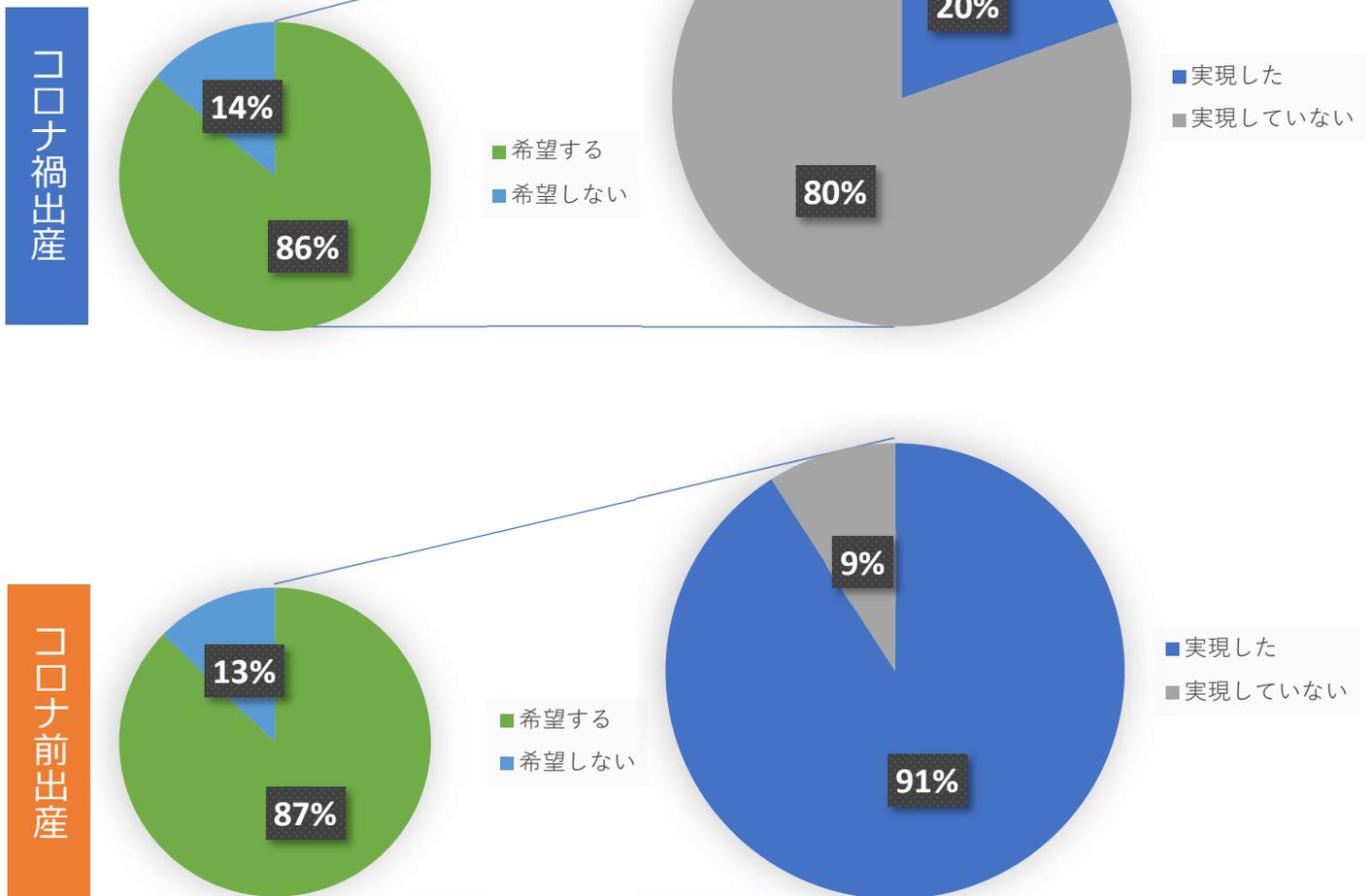


希望と実現「産後入院中のパートナーや家族の面会」

Q3「あなたが、あなたの（あなたのパートナーの）第一子妊娠期間中に
 ・「希望」しているもの（していたもの）をすべて回答ください
 ・「実現」できそうなもの（できたもの）をすべて回答ください」について、
 「産後入院中のパートナーや家族の面会」をみてみると、コロナ禍前後で「希望」にほとんど差はないが、希望者における実現率を見てみると、「コロナ前出産」では91%が実現しているのに対して、「コロナ禍出産」20%しか実現していないことが分かった。

産後入院中のパートナーや家族の面会

希望者の実現率

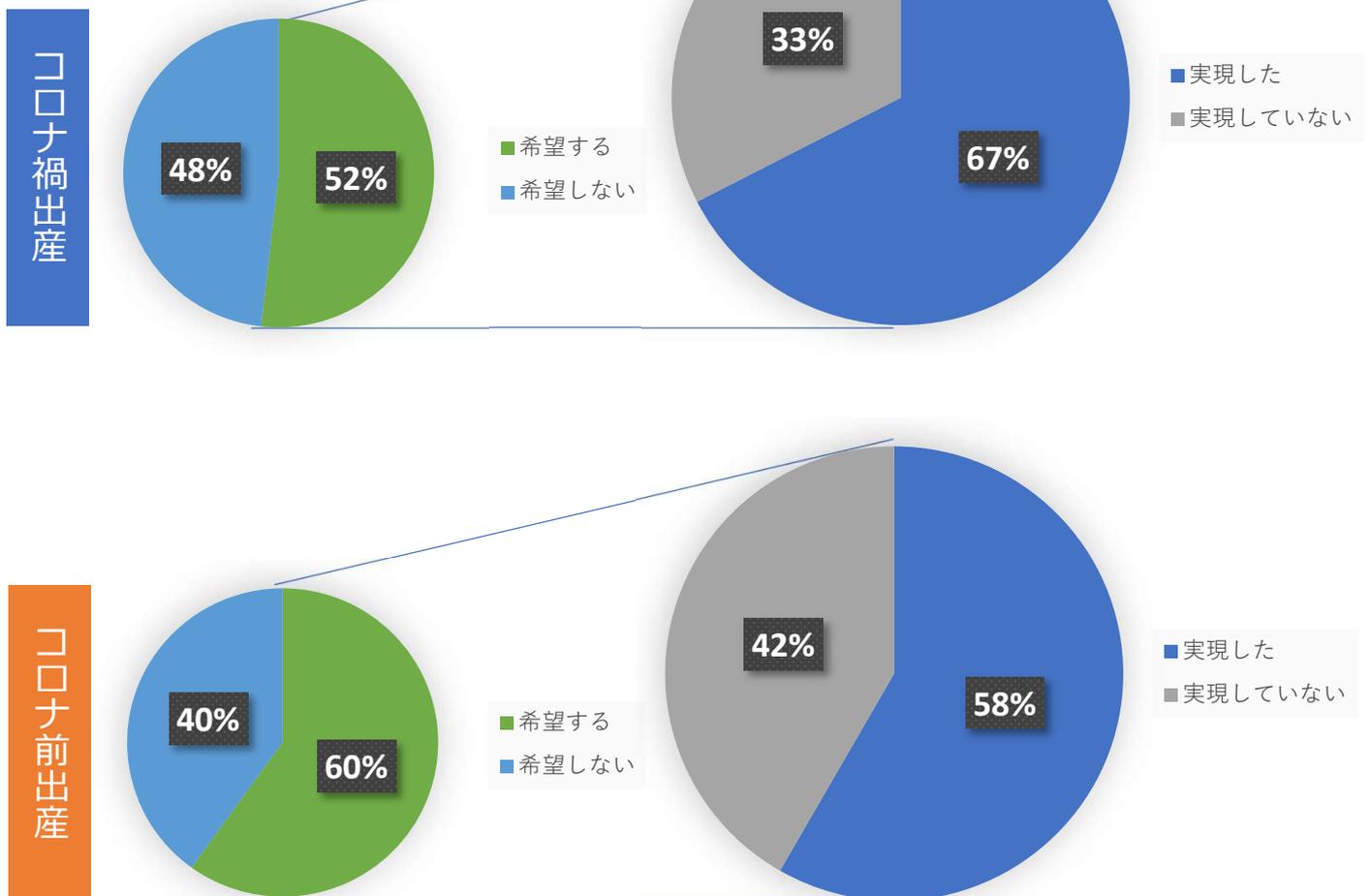


希望と実現「父親の育児休暇・休業取得 (家族をサポートする目的で取得した有給休暇含む)」

Q3「あなたが、あなたの(あなたのパートナーの) 第一子妊娠期間中に
 ・「希望」しているもの(していたもの)をすべて回答ください
 ・「実現」できそうなもの(できたもの)をすべて回答ください」について、
 「父親の育児休暇・休業取得(家族をサポートする目的で取得した有給休暇含む)」をみてみると、
 コロナ禍前後で「希望」にほとんど差はない。
 一方、希望者における実現率を見てみると、「コロナ前出産」では58%が実現しているのに対し
 て、「コロナ禍出産」67%実現しており、「コロナ前出産」を唯一上回っている。

父親の育児休暇・休業取得 (家族をサポートする目的で取得した有給休暇含む)

希望者の実現率

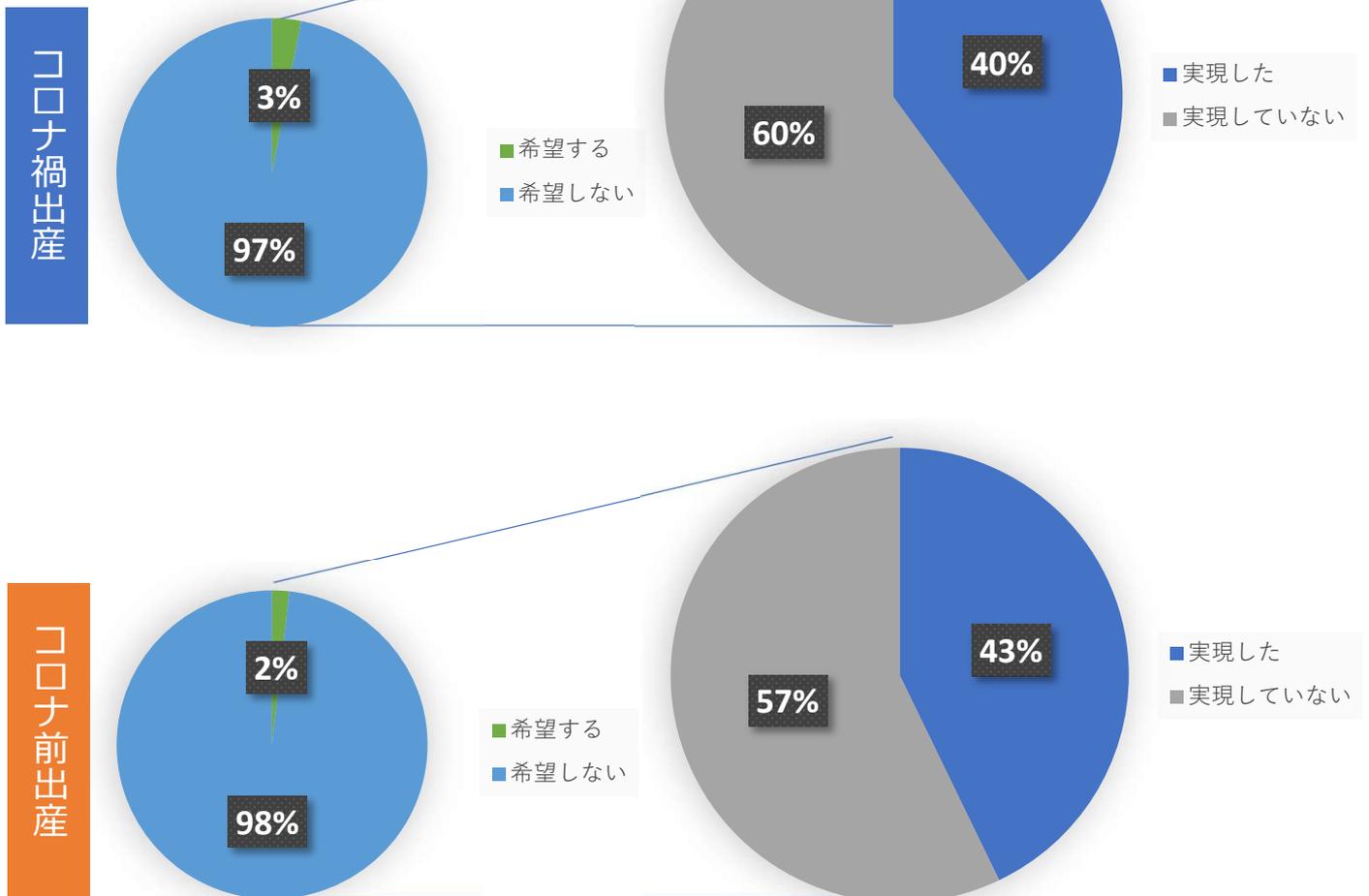


希望と実現「その他」

Q3「あなたが、あなたの（あなたのパートナーの）第一子妊娠期間中に
 ・「希望」しているもの（していたもの）をすべて回答ください
 ・「実現」できそうなもの（できたもの）をすべて回答ください」について、
 「その他」をみると、コロナ禍前後で「希望」にほとんど差はない。
 また、希望者における実現率をしてみると、コロナ禍前後でほとんど差がなかった。

その他

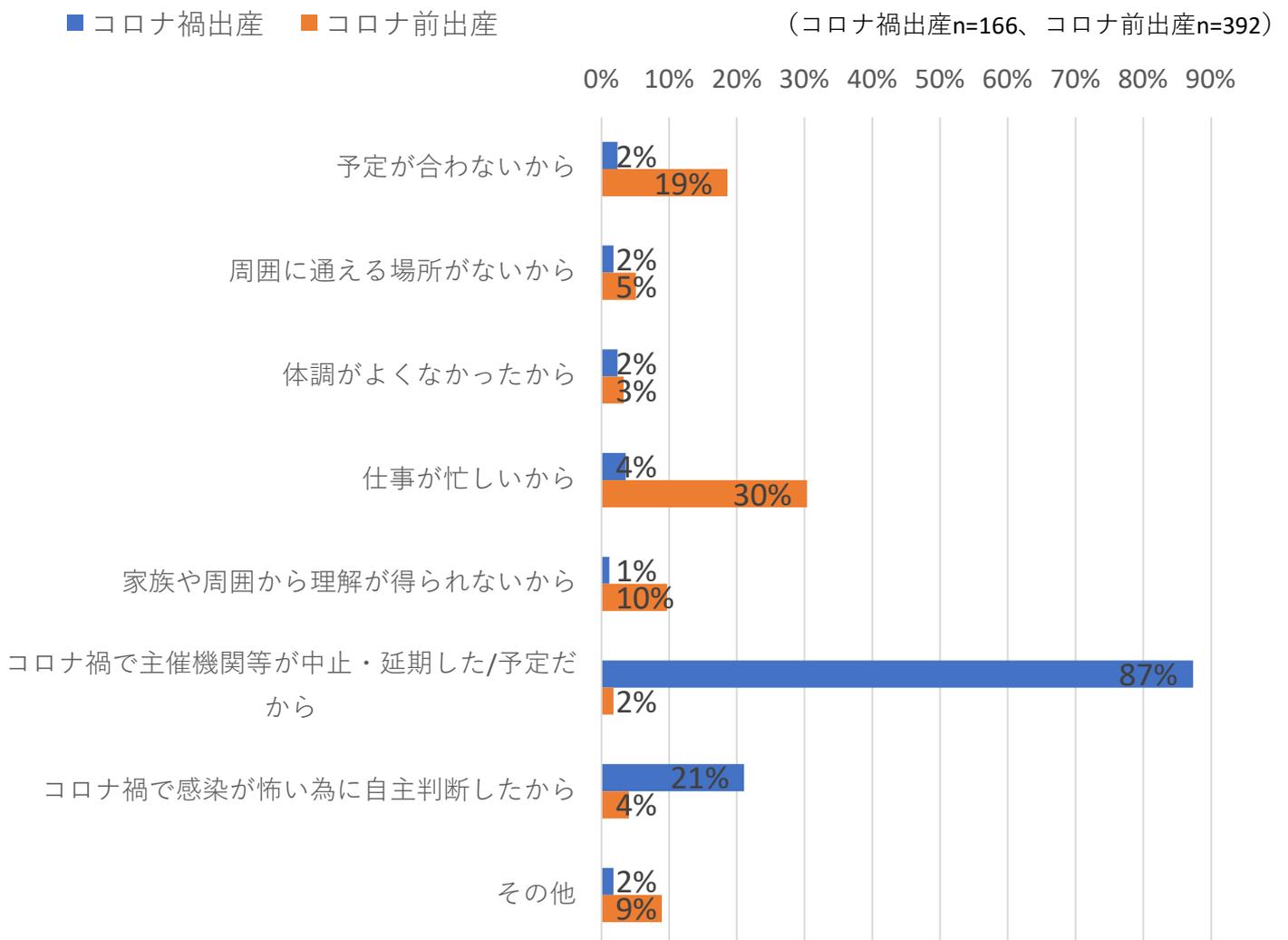
希望者の実現率



希望していたのに実現できなかった主な理由

Q4「Q3について、希望していたのに実現できなかった（できそうにない）主な理由は何ですか？」（複数回答）について、「コロナ前出産」では、「仕事が忙しいから」30%、「予定が合わないから」19%となっている。

一方、「コロナ禍出産」では、「コロナ禍で主催機関等が中止・延期した/予定だから」87%と圧倒的1位となり、「コロナ禍で感染が怖い為に自主判断したから」21%が続いた。



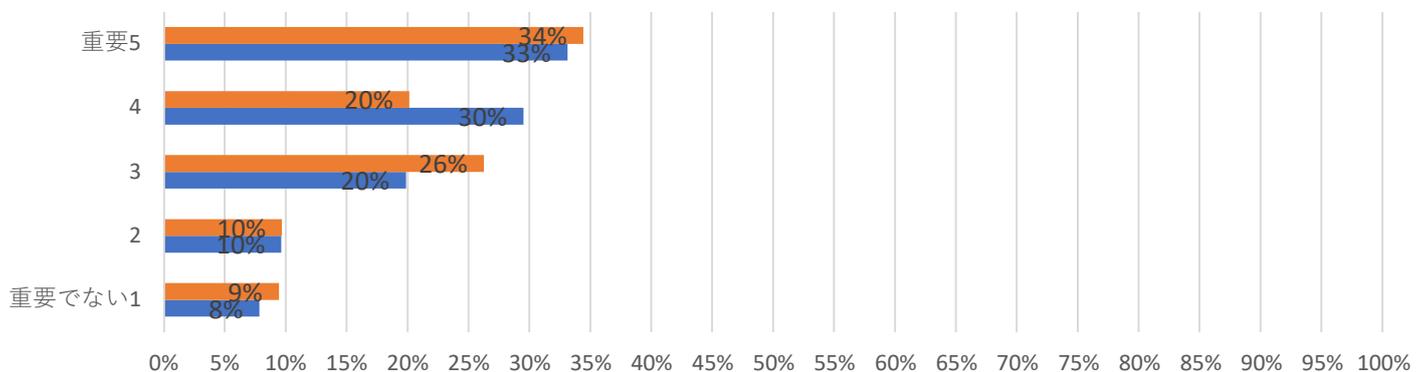
「その他」では、「コロナ前出産」自由記述として「帝王切開で出来なかった」「切迫流産・切迫早産で入院して安静に過ごさねばならなかった」「切迫流産、切迫早産でMFICUに入らざるをえず、産後子どもももしくばらくNICUに入院したため」などがあつた。

自分自身、夫婦関係、家族にとっての重要度（1/10）

Q5「次の各項目について、自分自身、夫婦関係、家族にとってあなたが思う重要度5→1を回答ください」について、「コロナ前出産」「コロナ禍出産」ともに、重要度5が高い順に「出産後の産後ケアサポート（親族含む）」約9割、「産後入院中のパートナーや家族の面会」約8割、「パートナーや家族の立ち合い出産」約7割、「父親の育休（有給休暇含む）取得」約6割と続いた。また、「コロナ前出産」と「コロナ禍出産」の重要度の判断を比較すると、どの項目においても、大きな差はみられなかった。

■ コロナ前出産 ■ コロナ禍出産 （コロナ禍出産n=166、コロナ前出産n=392）

1. 妊婦健診にパートナーや家族の同伴



重要5・4の理由

【父親への自覚を養う】

- ◆父親は実感持てないので、エコーを見たりや心音をきいたり、夫をパパにしたと思います
- ◆夫は妊娠が進んでいることは体験できないので、健診を通して赤ちゃんが育っている様子や今後の生活の注意点などを実感してほしいから
- ◆父親のスイッチは出産前から入っていると、仕事の調整などの実現可能性が大幅にかわりますなど多数

【夫婦でシェアしたい】

- ◆あらゆる意味での情報の格差をなくすため（エコーでの様子なども含め）また、1人で聞くよりも2人で聞く方が前知識を多く得られる。（妊婦の時は、情報を全部頭に入れるのがそれ以前よりも難しかった）
 - ◆出産や、それに至る過程で起きる必要なプロセスを妊婦一人に負わせるべきではない
 - ◆夫婦二人の子なので、成長過程を2人で確認するのは大切なことだから
 - ◆胎児の頃から成長をともに喜ぶことができるから。
 - ◆エコーで赤ちゃんが動いているのを見る感動がある。
- など多数

【妊婦にとって安心・安全】

- ◆妊婦の体調は不安定で、かつ妊婦をターゲットにした嫌がらせも存在するために、移動に付き添いがあれば安心
 - ◆体調の急変があり得るので、一人で移動するのは心細かった
 - ◆地方だと、公共交通機関が発達しておらず、妊婦が自動車運転を行うとリスクが伴う
- など多数

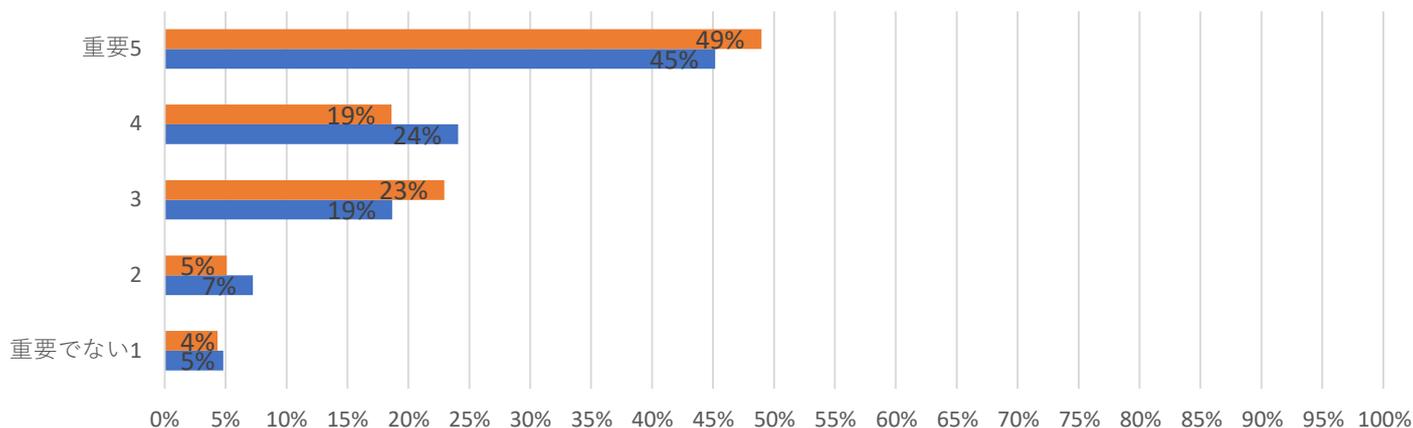
自分自身、夫婦関係、家族にとっての重要度（2/10）

■ コロナ前出産

■ コロナ禍出産

（コロナ禍出産n=166、コロナ前出産n=392）

2 病院・産院等の両親学級等を受講



重要5・4の理由

【夫婦でシェアしたい】

- ◆産前産後の知識を夫婦で把握したいから
 - ◆産後の不安を母親1人で背負うことのないように
 - ◆正しい知識を得て、夫婦間で認識の格差なくスタートを切れることが望ましい
 - ◆特に第一子。大変さも一緒に共有。一次情報を同時に取得（同じ立場に立つ）
- など多数

【情報収集】

- ◆夫婦共に経験がない可能性が高いことなので、練習は多い方が良いと思います。
 - ◆医学的な見地でのアドバイスがほしいから
 - ◆第一子めは何も知識がないので、沐浴指導など、必要だった。また離乳食で蜂蜜は駄目、妊婦は水銀含有率の高いマグロなどの魚は避けるべき、などは教えてもらえないと知り得なかった。
 - ◆産院の方針や可能な出産方法を知るため
 - ◆病院独自の持ち物や病院の方針を知る機会になる
- など多数

【父親の自覚】

- ◆私自身も初めての出産だったので、夫と一緒に共通理解を深めたかった。夫にも当事者意識を持ってもらいたかった。
 - ◆生まれる前からパートナーにも赤ちゃんと一緒に育てていく同士として出来ることがいろいろあることを知ってもらいたいから。
 - ◆父親の心構えづくりには、外部の力が必要。妊婦が教育するのは負担が大きいし、男性的な説明を男性医師からしてもらった方が伝わりやすいと思う。
- など多数

【立ち合い出産には必修】

- ◆受講が立ち合い分娩の条件だったから。
 - ◆第一子を出産した病院は、両親学級の受講が立ち合いの条件だった。
- など

コロナ禍前後の妊娠出産に関するアンケート

Copyright © 2020 NPO法人 Fathering Japan、スリール株式会社 All rights reserved.

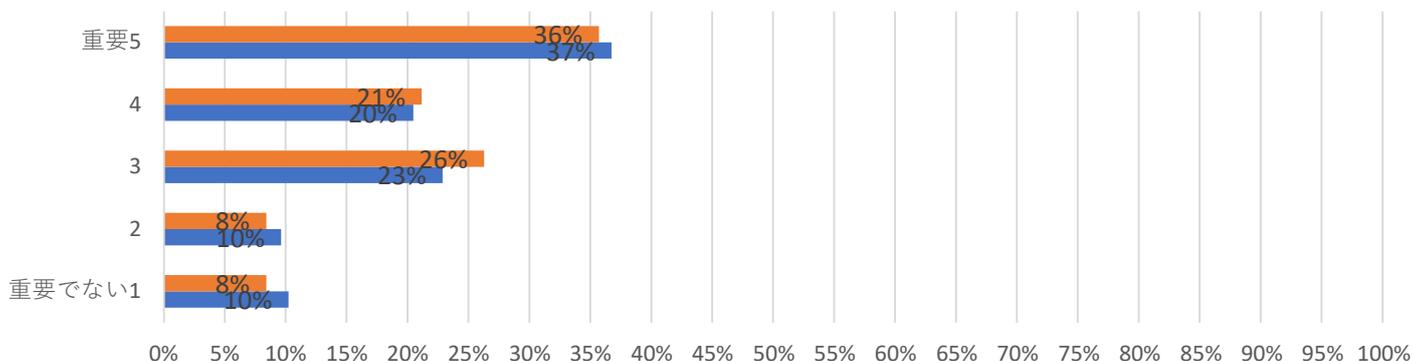
自分自身、夫婦関係、家族にとっての重要度（3/10）

■ コロナ前出産

■ コロナ禍出産

（コロナ禍出産n=166、コロナ前出産n=392）

3 自治体の両親学級等を受講



重要5・4の理由

【仲間づくり】

- ◆夫の地元での子育てのスタートだったので、知り合いも全くおらず、とても心細かったが、自治体の両親学級で、知り合って、その後検診で再開し友達ができました。
 - ◆赤ちゃんのお世話の仕方を学ぶ機会、ママ友関係構築のために受講が必要だと思う
 - ◆近隣のファミリーと触れ合えるという点も一つ。夫と妊娠期、出産、その後と共に考える時間を持てて良かったと感じる。
 - ◆地域とのつながりづくりのきっかけになるから
 - ◆地域友達がいなかったため、パパ友ができたのは良かった。
- など多数

【地域の情報収集】

- ◆地域の子育て情報の把握も含めて、夫に父親になる自覚を持ってほしいから
 - ◆子育て期から自治体との関わりを持つ家庭も多いと思うので、その点でも産前の受講はいい機会になると思う。
 - ◆自治体の制度（ママの集いやサポート制度など）を知ることが出来る、また予防接種でどこの小児科に通うかなど地元の話ができる。雰囲気によってはその後連絡がとれるママ友もできる
- など多数

【体験型が多いから】

- ◆妊婦体験は、妊婦のカラダの負担について知ってもらえて良かったです。
 - ◆沐浴練習などはよかったと思う
 - ◆自治体や民間は出産までの生活や育児のスタートに必要な知識、模擬体験をさせてくれるから。妻から言うと角が立つことも第三者や専門家から言われると素直に聞く男性も多いと思う。
- など多数

【情報収集】

- ◆離乳食で蜂蜜は駄目、妊婦は水銀含有率の高いマグロなどの魚は避けるべき、などは保健所でしか教えてもらえなかった。（産婦人科ではそういった事は特に注意される場がない）
 - ◆産院は出産メイン。育児についてや産後クライシスなどは自治体じゃないとやらないから
 - ◆病院以外でも子育てはいろいろなので、自治体のも参加して子育ての不安を軽減したいから
 - ◆ネットでも勉強できるが実践で学びたかった。自分で情報収集すると内容に偏りが出る
- など多数

コロナ禍前後の妊娠出産に関するアンケート

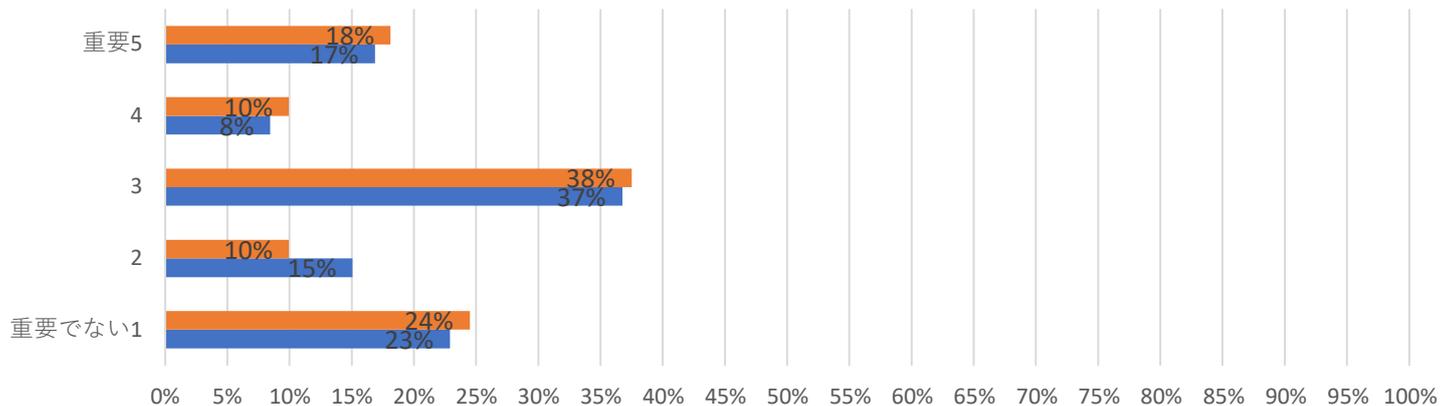
Copyright © 2020 NPO法人 Fathering Japan、スリール株式会社 All rights reserved.

自分自身、夫婦関係、家族にとっての重要度（4/10）

（コロナ禍出産n=166、コロナ前出産n=392）

■ コロナ前出産 ■ コロナ禍出産

4 民間企業・団体等の両親学級等を受講



重要5・4の理由

普通の産院では教えてくれないような妊婦の骨盤体操や産婦の身体の使い方、まんまる育児など自分で興味をもった講座や、自然出産サミットなどの動画配信は他では得られないことで自分のお産にとってすごくプラスだった。自分が信頼できる助産師さんがゲストのイベントなどもお産に対してとても前向きになれた。

自治体、産院主催のものは日にちが合わないと受けられないし、平日開催で仕事があり行きづらかったので、民間の選択肢もあるといいと思う。

有償だが大葉ナナコさんのバーススクールに通い、自治体の内容と全然違い面白すぎた。

ファザーリングジャパンのような団体の講演が必要。正直沐浴指導や妊婦体験はいらぬ。出産後夫婦の関係が変わるため、それにどう備えたら良いかという知識を与える機会が必要だと思う。

重要3・2・1の理由

【他で十分】

- ◆ 病院か自治体のものに参加できれば、それで済む。
- ◆ 本やYouTubeで知識は学べるから。
- ◆ 産院、自治体含めて、どれかひとつでいいと思う。時間もないですし。

【営利や有償の不安】

- ◆ 営業・広告が入っていてわかりづらいから
- ◆ 民間のは営利目的な宣伝が含まれてると感じてしまう。
- ◆ 費用がやや心配

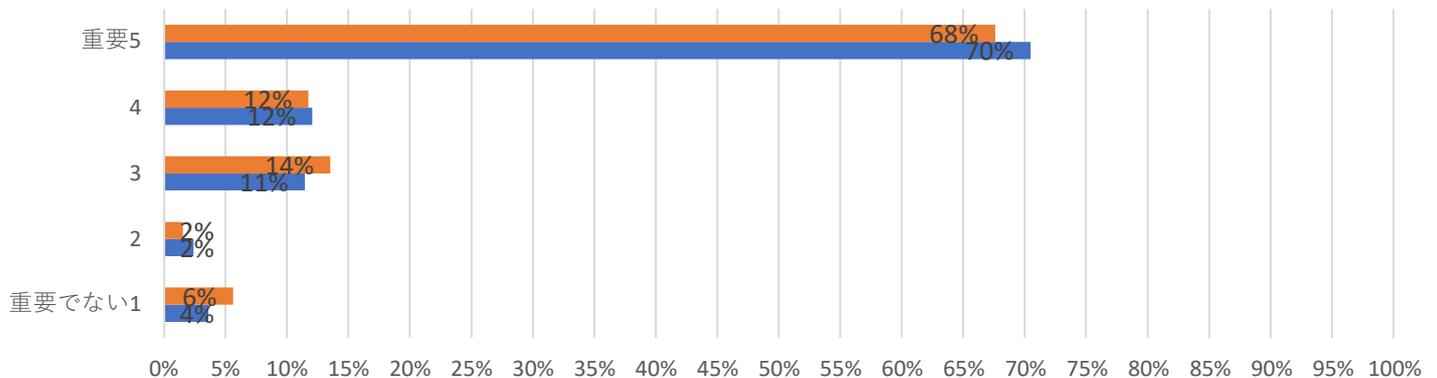
【知らなかった】

- ◆ 周囲になかった
 - ◆ 民間企業が両親学級をやっているとは知らなかった。
 - ◆ 地方では民間の学級は少ない。
- など多数

自分自身、夫婦関係、家族にとっての重要度（5/10）

■ コロナ前出産 ■ コロナ禍出産 (コロナ禍出産n=166、コロナ前出産n=392)

5 パートナーや家族の立ち合い出産



重要5・4の理由

【一緒に】

- ◆ 出産の喜びを一番に共有したいから。産むまでの大変さを分かってほしいから。
- ◆ 夫婦二人の子どもを協力して出産したい。その子の出産はその時しかないから、誕生の瞬間を夫にも見てほしい
- ◆ パートナーの立ち合い出産で、結果的には緊急帝王切開になったので、最後まで一緒にいられませんでした。出産の過程を見ることで、子どもへの愛着や、ママの大変さを認識してくれた
- ◆ 人生に二度とない瞬間をともに過ごしたい
- ◆ 出張の多い旦那さんをアテにせず、ひとりで産むと決めた！と言って2子をひとりで産んだ友人も居ます。夫婦仲・家族仲は非常に円満です。立ち合いが出来なかったら家族としての絆が著しく損なわれる…と、これからの妊婦さんが思い詰めないような雰囲気づくりも必要だと思うなど多数

【サポートが必要】

- ◆ あの痛みに耐えるには、サポートが必要だと思った
- ◆ 陣痛中、看護師さんの巡回は頻繁でないため、夫がいなかったら一人で耐えられなかった
- ◆ 立ち合いでなければ産めなかったと思う。心強かった。
- ◆ 立ち合いと1人での出産、どちらも経験したのですが、一人での出産は心が折れました。絶対立ち会ってほしいです。
- ◆ 自宅出産だったので、パートナーにもたくさんの役割があった。安産のために必須だと思っているリラックス（安心感）はパートナーなしでは得られない。
- ◆ そばにいてほしい。持病もあるので、何が起こるか分からない不安がある。
- ◆ 出産時のトラブル対応や陣痛のサポートなど、理性的な患者側の大人が最低1人は必要であるなど多数

【親の自覚】

- ◆ どれだけ大変かきちんと目撃しておく責任があると思うからです。
- ◆ 新しい家族の誕生の瞬間はこの時しかない。命の誕生、生命の奇跡、親になること、そこに行き着くまでの壮絶な苦しみと命がけの出産はその目の前で起こることで重みがあると思う。
- ◆ とても良い機会でしたし、父親になった実感を持ってました
- ◆ 立ち会いまでしなくとも陣痛時の付添くらいはしないと、男性には出産の壮絶さが伝わらずその後一ヶ月の妻の体調変化を理解しにくくなると思うため。
- ◆ 命懸けで産む姿、命懸けで生まれる姿を見ることで父親としての自覚が増すから。など多数

コロナ禍前後の妊娠出産に関するアンケート

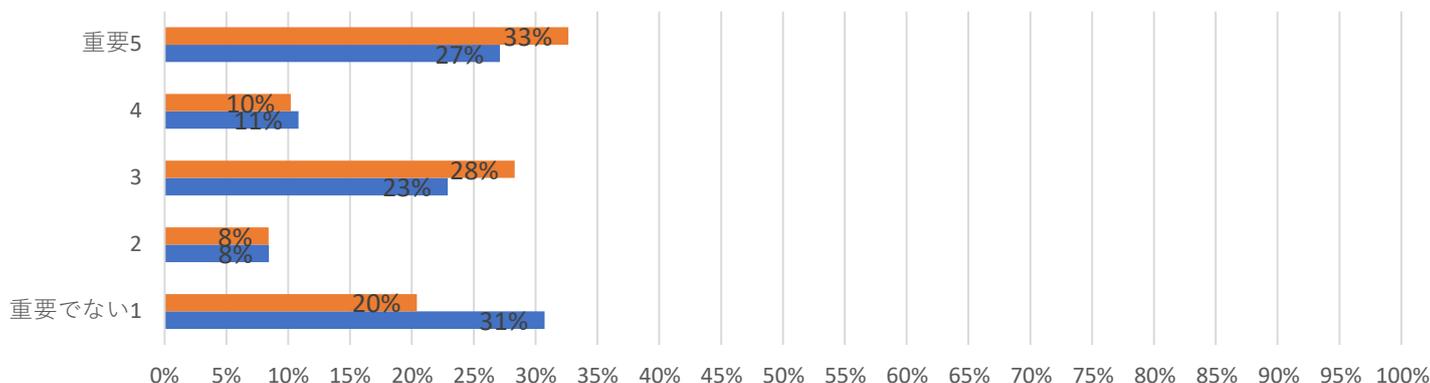
Copyright © 2020 NPO法人 Fathering Japan、スリール株式会社 All rights reserved.

自分自身、夫婦関係、家族にとっての重要度（6/10）

■ コロナ前出産 ■ コロナ禍出産

（コロナ禍出産n=166、コロナ前出産n=392）

6 里帰り出産



重要5・4の理由

【休養・親孝行】

- ◆ 家族ごと 夫の実家に。何もしなくていいよ！とってくださり、身体を休めることができました。
- ◆ 実家で過ごせるのはとてもよから。ちなみに、一人目は夫も一緒に里帰りをしました。
- ◆ 身体を休めるには、親のサポートが必要だった。
- ◆ 両親に新生児時代をきちんと見てほしかった。親孝行の一種。
- ◆ 親孝行など、親との関係を見直す貴重な時間にもなるから

【サポート】

- ◆ 育児初心者な二人だったため、ベテランな親にそばにいてアドバイスもらいたかったから。
- ◆ 出産を経験している母親だから、言わなくても何かとお世話してくれました。
- ◆ 旦那の手が借りれなくて上の子がいると里帰りしないと臨月などは流石に体調が辛かったと思う。

重要3・2・1の理由

【夫へ悪影響】

- ◆ 里帰り出産をすると、父親が育児に参加する機会がなくなってしまい、その後も母親側に偏る要因となる。初期はとても重要。
- ◆ 母親の実家に帰る場合、父親が常に側にいられない(日帰りする・長時間いづらい・いても他人行儀)。経験者(祖母)のアドバイスより、未経験者同士で知恵を出し合うほうが、楽しいと感じる。
- ◆ 里帰り出産はできれば避けて欲しい。パパがママと同じスタートラインに立てず、パパ不在の育児スタイルが完成してしまい、パパは育児家事のサブという形になりかねないから
- ◆ パートナーと子供の時間を優先したかったので、里帰り出産はしなかった。
など多数

【実家が近い・実家はNG】

- ◆ 毒親の元へは(実家) 帰りたくない。
- ◆ 実家が近いので週2くらいで手伝いに来てもらう予定
- ◆ 最近家庭環境が複雑だったり、頼る親のいない家が増えていると思うので、日本の里帰り出産という概念をなくしてほしい。
- ◆ 両実家とも田舎で医療機関が充実しておらず、上の子の学校や保育園もあるため、両実家の親に来てもらう方法を選びました。
など多数

コロナ禍前後の妊娠出産に関するアンケート

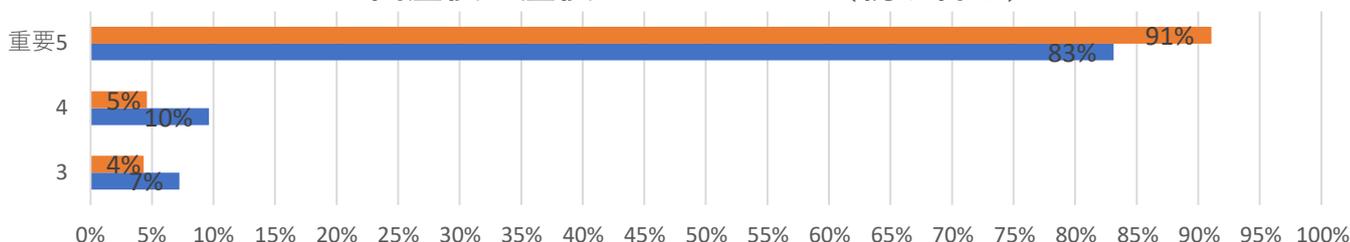
Copyright © 2020 NPO法人 Fathering Japan、スリール株式会社 All rights reserved.

自分自身、夫婦関係、家族にとっての重要度（7/10）

（コロナ禍出産n=166、コロナ前出産n=392）

■ コロナ前出産 ■ コロナ禍出産

7 出産後の産後ケアサポート（親族含む）



重要5・4の理由

【一人では無理・不可能】

- ◆産後は今までに感じたことのない体の変化があり、精神的にも体力的にもかなり不安定になる。
 - ◆初めての子育て、慣れない授乳、眠れない日々により鬱になりかけたため。母親をサポートすることが虐待防止にも繋がると思っています。
 - ◆昨日、産後の1週間検診に行きました。付き添い不可なので一人で、片手に赤ちゃん、片手にオムツやお着替えや検診グッズがたっぷり入ったマザーズバッグを持って、三時間に及ぶ母子検診…。病院側からのサポートはなく、平気でカルテの記入や血圧測定、採尿をしてくださいと言われるのですが、空いてる手などありません。三時間ずっと4キロの赤ちゃんを抱っこし続けて腕や肩はパンパン。水を飲むこともできず、3時間後にはぐったりでした。
 - ◆サポートがないと本当に比喻でなく死んでしまいます。
 - ◆第一子の時よりも第二子以降の時に、やはりサポートしてもらわなければ出来ないことが沢山ありました。出産時に子どもを預けたり、産後の家の事や子どもの面倒をみてもらうなど。
 - ◆人類の歴史を見ても周りのサポートは必須です。コロナコロナと言って引き離すのはおかしすぎます。
 - ◆1人では不安で押しつぶされそうだったし、とにかく寝られず食事もできずだった
 - ◆育児書には正解は書いていない、この対応で合っているのか不安でおかしくなりそうだった
 - ◆軽度の産後うつになっていて、2歳くらいまであまり記憶がないくらい楽しい記憶がない
 - ◆産後の体調がすこぶる悪く、子どもを抱っこ出来ないほどの腰痛、乳性炎などに悩まされ、子育てどころではなかったから
 - ◆ここでの父親の関わり方が非常に重要。オムツ替えや沐浴などで父性が芽生え、その後も積極的に育児をする。うちの時はオムツ替えられない、という夫には容赦なく怒ってよいと思う(笑)
 - ◆面会できませんでしたが、5日間の入院中3日は必要なものを主人に届けてもらいました。届いた荷物が几帳面な主人の入れ方が反映されていて、それを見るだけで癒されました。
- など多数

【第三者サービスの良さ】

- ◆夫だけだと夫にばかり負担が行くため、夫以外にサポートがほしかった
 - ◆里帰り出産せず、行政の産後ケア施設で1週間過ごした。良い育児訓練期間になった。
 - ◆特に夫婦だけだと辛い！息抜きに必須。
 - ◆夫も出張が多かったのであらゆる行政のサポートをつかったり、プロに委ねました。
 - ◆助産師さんや産後ドゥーラなど、産後の母体ケアや最新の育児情報を持っているプロのサポート、プロによる夫の教育があると良い。
 - ◆育児観の違いや物理的距離等、親族にはあまり期待しないほうがよいかと思うため。プロによる産後ケア事業の発展・普及が望まれる。
- など多数

コロナ禍前後の妊娠出産に関するアンケート

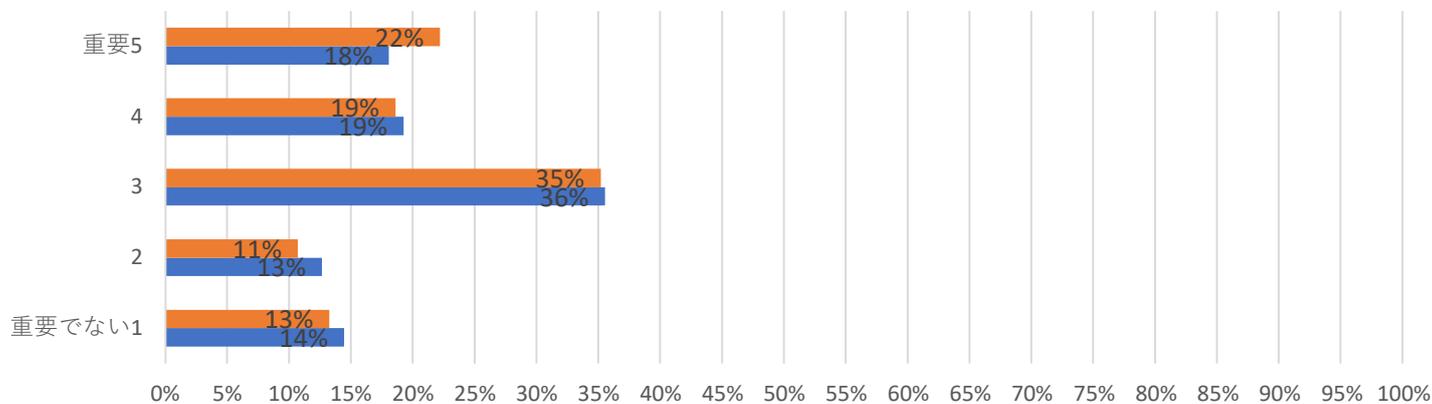
Copyright © 2020 NPO法人 Fathering Japan、スリール株式会社 All rights reserved.

自分自身、夫婦関係、家族にとっての重要度（8/10）

■ コロナ前出産 ■ コロナ禍出産

（コロナ禍出産n=166、コロナ前出産n=392）

8 マタニティ・エクササイズ（運動・ヨガ・スイミング）



重要5・4の理由

【運動の大切さ】

- ◆適度な運動の適度が分からないので、習ったりできるのは嬉しい。
 - ◆お産は体力勝負だから。マタニティスイミングで習った呼吸法はお産の時に役に立った。
 - ◆自分ではどれだけの運動強度が許容できるか分からないので、インストラクターさんに教われてよかったから。
 - ◆気功の教室にはずっと通っているけれど、臨月の時には週5日通った。素晴らしいお産を体験できたのは、よい呼吸やリラックスにつながるエクササイズをしていたからだと思っている。
- など

【仲間づくり・リフレッシュ】

- ◆スイミング、ヨガ、ウォーキングクラス、バランスボールに参加。同士が一気に増えて 出産間近も直後も、相談したり励ましたりして とても助かったから。
 - ◆体調管理と、同時期出産の人と会えるので悩みなどを共有できるのが心強い。
 - ◆妻がリフレッシュに楽しく行っていた。その間子どもは私が面倒を見ることもあった。
 - ◆リフレッシュのため同じ境遇の人と過ごす時間は貴重
- など

重要3・2・1の理由

【体調や仕事で無理】

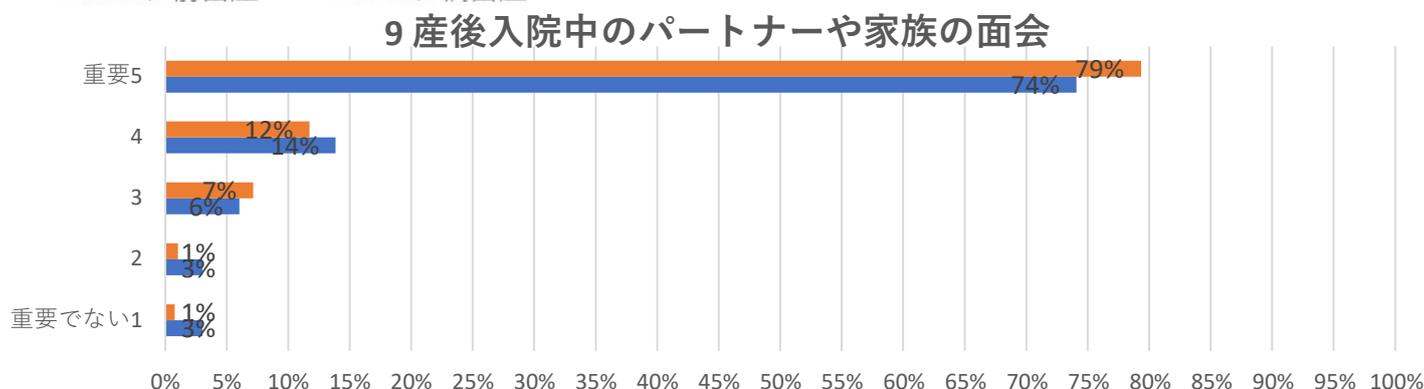
- ◆悪阻がつらすぎてそれどころではなかった
 - ◆平日開催が多く、仕事をしながらは通えなかった
- など

【自分で出来る・問題なかった】

- ◆現在の主治医には歩くのが一番良いと言われている。特別なエクササイズの必要性は感じない。
 - ◆実施せず。近所の散歩などで気分転換と運動を兼ねた。
 - ◆自主的にやろうと思えばなんとかなる、オンラインでもできる
- など

自分自身、夫婦関係、家族にとっての重要度（9/10）

■ コロナ前出産 ■ コロナ禍出産 (コロナ禍出産n=166、コロナ前出産n=392)



重要5・4の理由

【生まれたばかり】

- ◆単純に産まれた子には毎日でも会いたい
- ◆新生児たくさん抱っこしてほしい！
- ◆入院期間中の数日でどんどん赤ちゃんの顔が変わるので見てほしい。
- ◆命をかけて命を生んだお母さんをねぎらい、赤ちゃんへ声をかけ肌を触れたりすることは必要。など多数

【一緒に】

- ◆労いが欲しい、一緒に喜びを分かち合いたい
- ◆人生の大きなイベントにおいて家族にとって記憶に残るシーンであり、欠かせない
- ◆みんなに一瞬しかないこの時を見て欲しかった
- ◆父親や子どもが、兄弟の誕生を共有し、「家族」を実感する機会となるからなど多数

【父親にとって】

- ◆出産の感動や産まれて数日も顔つきや過ごし方に変化のある新生児の成長を共有できないのは寂しいですし、父親の当事者意識を育てる段階も奪われると思います
- ◆毎日のように仕事帰りに寄った。生まれてすぐの、授乳が大変とかオムツ替えるやり方と妻と色々話せて、家に帰った後もスムーズに世話できた。
- ◆入院中に父親が子ども世話をできるよう看護師さんが鍛えてくれて後から助かった
- ◆産まれたての新生児に会える機会はほんのわずかの機会であるため、毎日面会に行きました。産後すぐのこの期間は父親にとっても親の自覚を育む特別な期間だったなど多数

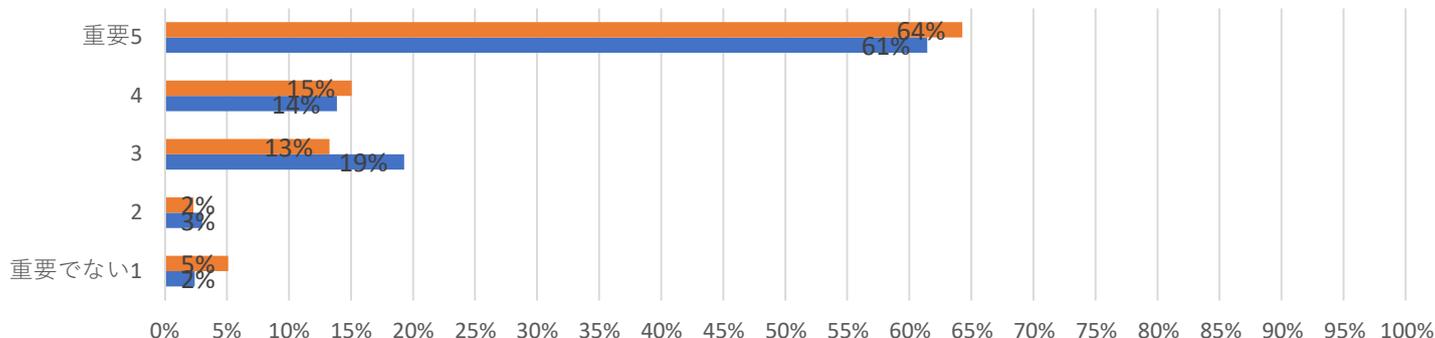
【産後ケア・サポート】

- ◆妻の不安を少しでも和らげられるなら寄り添いたい
- ◆産後入院中は身体的に辛く精神的にも不安定なため、面会は重要だと思う
- ◆産後は毎日病院に通い、ずっと子どもを見つめていた。また妻の産後の体調が悪く（激しい浮腫み、会陰切開の痛み、など）、付き添いが必要だった。
- ◆産後のメンタルのケアは1人では乗り越えられない。理由がわからない涙が止まらなかった。主人がいて落ち着くことができた。また、一緒に可愛いと言ってくれる人がいて、女性はいろいろ安定できると思うなど多数

自分自身、夫婦関係、家族にとっての重要度（10/10）

■ コロナ前出産 ■ コロナ禍出産 (コロナ禍出産n=166、コロナ前出産n=392)

10 父親の育休（有給休暇含む）取得



重要5・4の理由

【最後の砦】

- ◆ 育休断念していたら妻は産後うつなっていたかもと話していたから、取得して本当に良かった
- ◆ 特に、コロナ禍で親など親戚のサポートがもらいにくく、私の育休がなかったらと思うと、妻一人でかなりの時間を子育てしなくてはならず、精神的にも肉体的にも苦しかったと思うから
- ◆ コロナで親も国も自治体も頼れないなら、もうあとは旦那さんに頑張ってもらうしかありません。コロナでテレワークが導入されたり、仕事が少し暇になって有給を取りやすい状況であることがせめてもの救いです。
- ◆ 私は産後うつになって、子供を放置しそうに…そのとき夫が育休で家にいてくれたので、毎日何が不安なのかどうやって乗り越えていくのか話し合えたけど、あの状態で昼間1人、夜は疲れて帰ってきた夫がグースカ寝てる、なんて状態だったら自殺してたかも。。
- ◆ 今回、里帰りができないので第二子は4か月夫に育休をとってもらおう予定。 など

【産後ケア・サポート】

- ◆ 産後の大変な状態の妻に、家事や夜中の授乳など負担のかかることは極力させるべきでない。
- ◆ 母親が一番辛い時期に、父親がサポートすべきだと思うから。
- ◆ 生まれた子の親なのだから一緒に世話すべき。ママは身体がボロボロなので、せめて産褥期が終わるまでは育休は義務づけてほしい。 など多数

【父親の自覚】

- ◆ 周りの先輩パパたちからも必ず取った方がよいと言われてきた
- ◆ 産後のサポートを外部に頼むとしても今後も生活は続くので父親が戦力化することが重要
- ◆ 朝から晩まで自分一人で育児をやってみて母乳をあげる以外には体験してほしい。体験しないといつまでたってもメインではなくサブの立ち位置で育児をすることになりそうだから。 など多数

【そもそも】

- ◆ 普段仕事では休日体が休める日になってしまう。こちら遅くまで仕事してるのに子どもの事を頼みづらい。子どもとの時間も夫は作れない。それならどかんと育休取ってもいいと思う
- ◆ 有休ではなく「育児への部署異動」と記述していただきたい。
- ◆ 父親の子育ては「手伝う・サポートする」のではなく、一緒に悩み、喜び合うもの
- ◆ 育児スタート期を夫婦で試行錯誤しながら進めるのはその後の家族形成にとっても重要と感じた。
- ◆ むしろ、なんで、休まないのか疑問。
- ◆ 女性は当たり前のように取れて、男性が取れないのはおかしい。 など多数

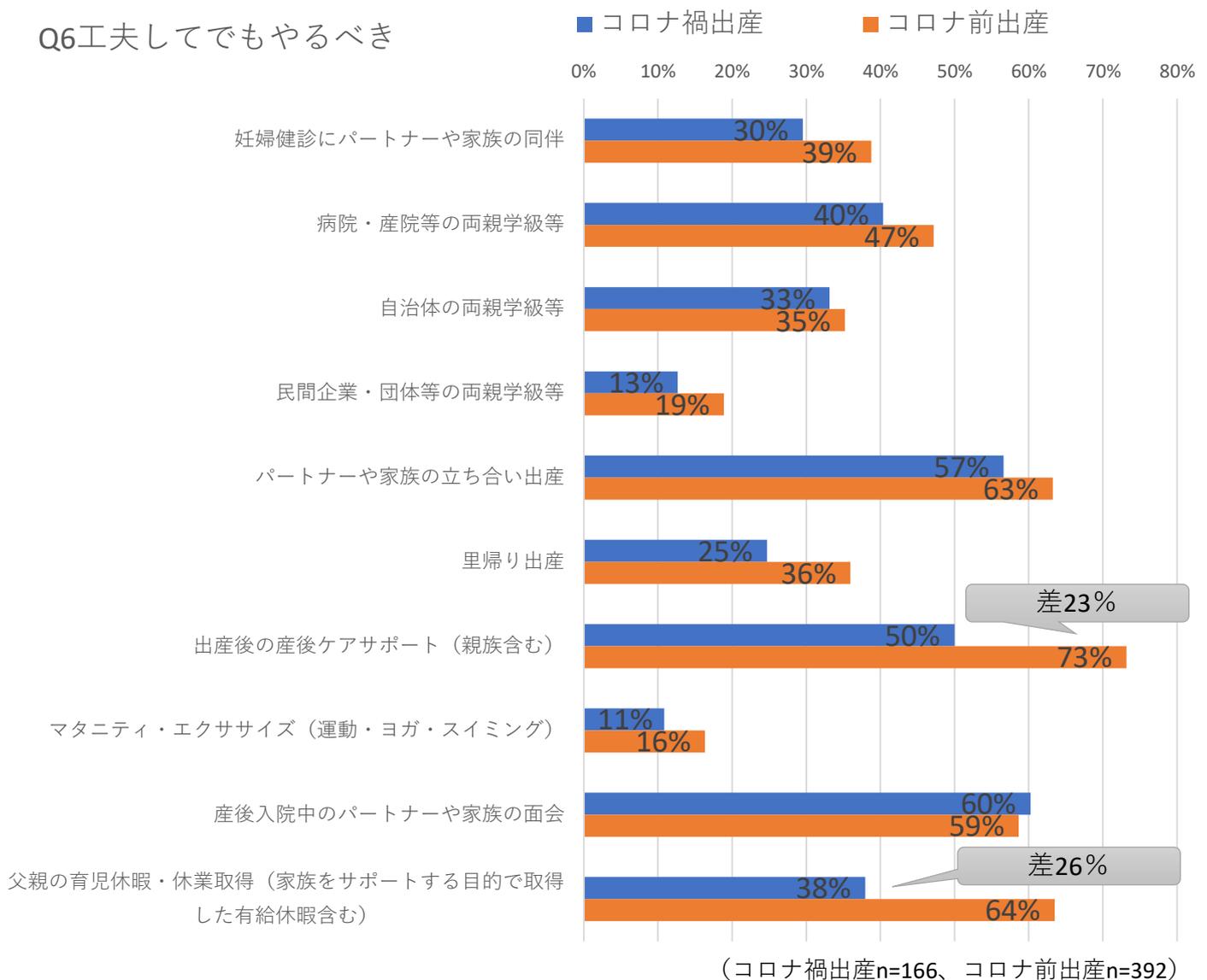
コロナ禍で工夫してでも実施すべきもの

Q6「次のうちコロナ禍で中止や延期等になっている場合、工夫してでも実施したほうがよいとあなたが思うものを回答ください」（複数回答）について、「コロナ前出産」では、回答割合の高い順に「出産後の産後ケアサポート（親族含む）」73%、「父親の育児休暇・休業取得」64%、「パートナーや家族の立ち合い出産」63%となった。

一方、「コロナ禍出産」では、回答割合の高い順に「産後入院中のパートナーや家族の面会」60%、「パートナーや家族の立ち合い出産」57%、「出産後の産後ケアサポート」50%となった。

「コロナ前出産」と「コロナ禍出産」で差が大きいのは、「父親の育児休暇・休業取得」26%差、「出産後の産後ケアサポート」23%差であった。

Q6工夫してでもやるべき



コロナ禍前後の妊娠出産に関するアンケート

Copyright © 2020 NPO法人 Fathering Japan、スリール株式会社 All rights reserved.

コロナ禍でも実施できる工夫・アイデア・事例

Q7 上記Q6において、コロナ禍でも実施できる工夫・アイデア・ご存知の事例があれば具体的に教えてください。

(1) 両親学級・産前産後ケア 以下抜粋にて一部紹介

松戸市では助産師さんによる母親学級や、妊婦コンサルがオンラインで実施中

名古屋市では両親学級をzoomで開催してるはず

杉並区では、YouTubeで両親学級を配信していた

浜松医大病院 両親学級のweb開催

佐世保市内の産婦人科にて妊婦クラスや両親クラスをZOOMに切り替えてるところもあり

金井産婦人科ではオンライン両親学級実施

ムーニーがInstagramのライブで両親学級をやっていて良いと思った

木更津市では、電話での相談やzoomでの両親学級をやっていた気がします。私は予定合わず参加していませんが、そのような案内が来ました。

ベヒカムなど、オンライン両親学級を実施している。

横浜市港北区では、NPO法人によるオンライン両親学級などが行われている。

両親学級の内容はオンライン化したとしても、きちんと聞いてないと意味がない（特に旦那側）ので、絶対夫婦ペアで受ける工夫や確認テストが必要と思う。

産後エクササイズはマドレボニータさんのオンラインクラスを受講しました。

(2) 妊婦健診

妊婦健診に夫はオンラインで同席

オンラインでの妊婦検診パパ参加、妊婦検診での超音波検診をインターネットで配信するサービスをもっと拡充させる

妊婦健診の同伴について:待合室で待つのではなく、車の中で待つのなら同伴可にする

(3) 立ち合い出産

第1子出産時に夫はFace Timeでオンライン立ち会いしました

友人は出産時にLINE電話を繋げながら出産したとのこと

オンライン立ち会い出産(実施予定)

妊婦健診や両親学級のオンライン通話、出産時のビデオ撮影など、人と手間はかかりますが、一生に一度かもしれない機会を貴重なものにしていただきたい

コロナ禍でも実施できる工夫・アイデア・事例

(4) 事例 以下抜粋にて一部紹介

2020年6月に第二子を出産した湘南鎌倉バースクリニックでは、マスクもない状態での立ち会い出産が可能でした。7月には両親学級も再開していたかと思います

出産予定の病院では立ち会い出産が中止になったため、急遽臨月に立ち会い出産のできる病院を探して転院しました。

東都文京病院では家族1名に限り、立ち会い出産が可能でとても心強かったです(2020.5出産)。妊婦はマスク着用も強制ではなく、苦しくなかったです。

慶應病院では妊婦の入院時にPCR検査必須となっているので、PCR検査が受けられたら自分や助産師さんもしっかりと安心できたと思います。

里帰り出産は、里帰り後2週間自宅待機の後に受診、という形で受け入れている病院が多かった(検診自体2週間おきなので不可能ではない)/私の産院では、分娩室のみ立ち入り可(消毒しやすい)として体温チェック/防護服で産前後1時間以内の立ち会い可/

私の行った産院では、母親学級は中止になってしまいましたが、希望すれば個別に助産師さんとお話しして質問があれば答えてくれるという形でした。また、立ち合いは夫がマスクを着用して臨みました。

現在妊娠中で、立ち会い出産がNGの病院での出産を予定してます。病院の院内感染が怖いのは重々分かるのですが、何かしら策があると嬉しいなと思います。

知り合いの千葉の病院では、PCR検査をして防護服を着て立ち会っていました。

とはいえ、総合病院だとそれも厳しいのが現状だと思うので、30週未満の時に判断をしてもらい、希望する場合は転院するなど選択肢を提示するのもありかと思います。

立ち会い出産が可能なのは、基本クリニックから助産院が多いので、特に早めに病院側に決断していただくと良いかなと思います。

川崎市では、時間を短くして防護服を着て立ち会い出産が可能でした。

品川区では妊婦への感染を避けるため、両親学級を父親学級として開催しています。

出産した病院では36週、38週の妊婦検診でPCR検査を実施、陰性の確認が必要でした。

夫にも同時期にPCR検査を実施、当日も感染防止対策をすれば、立ち会い出産できるのでは、と思いました。

2020年7月に出産@横浜でしたが家族や友人の立ち会いも面会もできました。

出産した産院では、母親学級を録画したDVDを貸し出しし、受講できました。

立ち会い出産は、LDRのみ、検温・マスク着用の上であれば、夫のみ可能でした。入院中面会はNGであったが、荷物の受け渡しのみ可能だった。

出産予定の助産院では健診もひと家族ずつしかしないので子どもや旦那の同伴も、立ち会いも可能。助産院だからこそですが、それでも心強いです。

アメリカで、夜泣きする赤ちゃん人形を使った教育があると聞いた。家に送られてくる教育キットなどなら、コロナ禍でもできるのでは

リスクも伴うかもしれないが、海外の出産のように妊婦検診の回数を減らす、産後の入院期間を短くするなど、病院の時間を減らすことで家庭の時間を増加させては。

コロナ禍でも実施できる工夫・アイデア・事例

(5) その他 以下抜粋にて一部紹介

立会いや面会に関しては、外来と出産後のお見舞い等の動線を分ける、手指消毒などで十分対応可能と思う。

PCRをして陰性なら立会い可能などは意味がない（PCRの感度の問題、検査のタイミングの問題、など）ので、PCR義務化や、至上論などはやめてほしい。

出産の立会いや面会はせめて第一親等までは可能としてほしい。

防護服は、医療従事者に少しでも回して欲しいです。コロナの最前線にいる人に…立ち合いに使うのは確実に量が確保されてから。現場の看護師もゴミ袋を使っていた時期があります。

順調で健康な方は自宅で出産はどうですか？病院よりも人の出入りが少なく安心する人もいますのでは？

オンラインではなく、対面が必要です。

パソコンに向かい合っただけでは、沐浴の仕方、抱っこの仕方等はレクチャーできません。

第一子のとき実際のこどもと同じくらいの体重がある人形を使い、沐浴レッスンを夫婦で受けました。当時はまだ妊娠5ヶ月。そのときのレッスンは実践で使えたかと言えば無理でした。

ただ夫の意識は変わりました。他のご夫婦がいたことも大きいです。

なんでもかんでもオンラインにしないでもらいたいです。

予防策をとり、会場で実施してください。不安に思う妊婦とパートナーのケアを優先してください。

コロナ禍で様々な制約のある妊産婦・夫の現状について

Q8 このコロナ禍で様々な制約のある妊産婦・夫の置かれている現状について、思うところがあれば自由に記述ください。

以下抜粋にて一部紹介（過酷な現状編）

<p>私も夫も感染対策を万全にしていたのに、夜の街やGo toの煽りを受け、出産直前に立ち会いも面会も何もかも中止になり、悲しくて悲しくて思わず泣いてしまいました。妊婦やその家族がいる家庭は、普通の人よりよほど気をつけて息を潜めて生活してきた10ヶ月だと思えますが、厳しすぎる病院側の判断があると思います。</p>	東京都
<p>コロナ禍の6月下旬に出産しました。出産した産院では、両親学級やマタニティヨガレッスンの中止、面会制限、PCR検査の実施等があり、仕方がないとは思いつつ、赤ちゃんのお世話の仕方がわからないまま野に放り出された気持ちでした。産後ケアの一環として、義母が3週間上京してくれましたが、追加で2週間上京する予定の実母は来れませんでした。事前にリサーチしていた産後ケアサービスも、コロナの感染が怖く、ほぼ利用できていません。激務の夫も積極的に育児に参加してくれますが、限界があります。ママ友もおらず、産後のちょっとした不安を共有することもできません。赤ちゃんは、まだ義母にしか会っておらず、義父や実母、その他親族に会わせたいけど、東京と地方の往来はコロナ感染拡大のリスクがあり躊躇しています。寝不足でボロボロ、赤ちゃんが可愛くないわけではありませんが、無の境地です。</p>	東京都
<p>妊娠がわかった直後に夫が転勤となり、離ればなれに暮らしているが、コロナの影響で一度も会えていない。妊娠中から父親になる実感を持ってもらうためにも、勤務先には家庭の状況に配慮してほしい。</p>	東京都
<ul style="list-style-type: none"> ● 出産に伴う手続きをオンラインで簡易に行えるようにしてほしい。 ● マスクができない赤ちゃんのためにも、マスクの義務化を屋内外問わず罰則付きで実現してほしい。 ● オンラインでの立ち会い出産の環境整備を病院側で進めてほしい（WiFiや通信端末含めて）。 	神奈川県
<p>コロナの中で2020年6月に第二子を出産しました。リモートワークになり日常で電車に乗る機会は皆無なのに、妊婦検診だけは電車に乗らないといけないというのが苦痛で、クリニックと相談し検診を間引くなどしていました。初めての出産を迎える妊婦への産前産後のケアは、二人目以降の妊婦とは区分して考えてあげてほしいです。精神的肉体的な負担やストレスが全く違います。たとえば、検診や両親学級、出産立ち会いや面会なども、初めての出産の人に比べて夫の参加をOKにするなどの取り組みがあると良いのでは。</p>	神奈川県
<p>6月に出産して、何も分からない最初の1ヶ月、赤ちゃんを外にも出せないのに親に手伝いに来てもらうこともできなくて、両親学級もなかったのが分からないことだらけで、とにかく不安ばかりで毎日泣いてました。</p>	東京都
<p>私、夫、義父母、実父母のそれぞれのコロナへの警戒心や予防法への差が結構違うように感じます。そこへのストレスがあります。夫と私自身の違いもまだ縮まってなくて不安に思うこともあります。子どもを買い物へ連れて行くのはどうなのか…ツワリがしんどくて子どもの横で休んでいるだけの母からすると買い物にでも気晴らしになるかと連れて行ってもらう方がいいのか…5、4、1歳の男の子…あちこち触りまくって帰ってきます…マスクもズレてるし…。</p>	兵庫県
<p>夫の理解が得られる機会があまりになく、ママ友などの共通の話題で話せる人とも会えず、気分転換に外出することもままならず、正直とても苦しい。</p>	静岡県

コロナ禍で様々な制約のある妊産婦・夫の現状について

以下抜粋にて一部紹介（過酷な現状編）

<p>第一子第二子やコロナ禍に関わらず、夫の心構え、特に産後の妻のケアについて、啓蒙する環境がもっと増えればいいと思う。夫だけでなく、企業の上司や同僚に対しても、働く妊婦や産後の夫を温かい目で見守る姿勢を啓蒙する支援があると助かります。</p>	東京都
<p>第二子出産のため東京から九州へ里帰り予定ですが、実家から感染者が出ると田舎の場合、すぐに広まって大変なことになります。そのため、帰省後はまず4歳の長女とワンルームの狭いウィークリーマンションにて（約16万）で2週間、待機生活をする事になりそうです。臨月の身で、活発な長女と二人だけの生活が成り立つのか不安しかありません。</p>	東京都
<p>緊急事態宣言直前に第二子を出産したので、産後3か月上の子の保育園が休園だったのが地獄でした…。1か月を過ぎた頃から上の子の狂暴化が激しく夫の上の子へのあたりも強くなってきたので、事態がより悪化する前に保育園に相談したところ、週一で登園させて頂くことができ、とても助かりました。その後、週一→週三と少しずつ登園日数を増やして頂き乗り越えました。ただ、世の中が自粛ムードを耐えている中、自分だけが弱音を吐いて良いのか…？と葛藤も大きかったです。我が家の場合はコロナで死ぬ前に虐待や産後うつで死んだらシャレにならん！！と保育園を頼る決断ができましたが、それができない家庭も多いはずなので、保育園や自治体側から支援の声をあげてもらえると良いのでは？と感じています。</p>	東京都
<p>友人がコロナ禍で出産するにあたり不安そうだったので、ほかの仲のいい友人とみんなで何度もzoomしておしゃべりしたことが不安解消になったと友人から言われたので家族じゃなくてもサポートできることがあったと思います。</p>	東京都
<p>妊婦検診に上の子を連れていけないこと。誰にも預ける人がいない</p>	大阪府
<p>妊娠してしまえばあとは母になるという覚悟でいくらでも頑張れるが、不妊治療を延期してくれというのは残酷だと感じる。自分自身も30代半ばなので妊娠を軸に考えると1ヶ月1ヶ月がとても大切な時間であり、それを自粛すべきと言われるとかなり辛いのでは。</p>	埼玉県
<p>入院中も面会ができないため、テレビ電話で家族の様子を知るのみ。洗濯物の受け渡しなども全て院内のスタッフを通してのやりとりです。少々寂しい気もしますが、一方で近隣でもクラスターが発生したりと日々感染者が増えている状況下、複数人が立ち入りするのは妊婦、新生児共に感染の恐怖があり隔離されていることで安心感もあります（他者に感染させない安心感も）。ただ、一生に一度きりの誕生を共に喜べない悲しみは拭うことはできないと思います。</p>	千葉県
<p>コロナ禍で妊娠後期に入り緊急事態宣言下で出産しました。立ち合い出産も入院中の面会も一切禁止、一人で分娩室へ入った時はとても心細かったです。コロナ禍での妊娠中に精神的に最も辛かったのは、毎日テレビや新聞で見聞きするニュースがコロナ関連一色だったことです。「コロナ感染者発生で産院閉鎖」、「分娩中にコロナ感染」等というニュースを聞くたびに他人事とは思えず気が滅入る毎日でした。</p>	大阪府
<p>妊婦の夫・赤ちゃんが生まれたばかりの父親は飲み会に誘うなというのが社会の常識になってほしい。母親になる人はお酒を飲まない・自由に遊べないのはしょうがなく、父親になるひとは依然として宴席に参加することにこれほど怒りを覚えるとは妊娠するまで思わなかった。 我が夫は新生児がいるのを伝えているにもかかわらずこのコロナ禍で歓迎会の主役として飲み会に誘われていた（断ってもらいました）</p>	埼玉県

コロナ禍で様々な制約のある妊産婦・夫の現状について

以下抜粋にて一部紹介（過酷な現状編）

<p>妊娠中の感染がとにかく怖かったです。なるべく外に出ず、買って来たものはすぐに除菌し、手洗いを徹底する生活の中で、通常通り過ごす人（外食、外出等）を見ては苛立ちを感じました。</p> <p>立ち会い出産ができなかったのは、この状況で致し方ないですが、一生に数回あるかないかのことなのにととても残念でしたし、一人で乗り越える陣痛は辛いものがありました。</p>	千葉県
<p>2歳の娘を一時保育に預けて、私自身の休息に時間を使いたいが、一時保育の自粛要請があり、また、自分としても預ける事が不安なので預けられず、体が休められない。コロナの感染が心配で、普段は手助けをしてくれる実母に、家まで来てもらう事が出来ない。専業主婦なので、日中1人きりでこどもをみながら、妊娠中という状況が、孤独に感じる。</p>	東京都
<p>第二子を3/30に里帰り出産しました。</p> <p>ぎりぎり里帰りは受け入れはしてもらえましたが付き添い、立ち会い出産、入院時の面会が禁止でした。</p> <p>入院中のことはHPへの掲載や事前説明がなかったので消耗品や飲み物（売店はもちろん自動販売機さえなかった）が不足し不自由しました。</p> <p>またたった4日間の入院でしたが上の子が精神的に非常に不安定になり、受け入れてくれた実家の負担もかなり大きく、あわや家族がばらばらになってしまうところでした。</p> <p>私も家族に迷惑をかけて申し訳ない気持ちから自分を責めるのと同時に、こっちは心身ともにボロボロなのに私に心配や労いの言葉もかけてもらえず悲しかったです。</p> <p>病院からフォローやせめて事前に十分な説明があれば違ったのですが、配慮や措置は何もありませんでした。</p>	千葉県
<p>家庭内感染のリスクが大きいことから、パートナー側も妊婦と同レベルの恐れかたをするべきかと思う。夫婦の会話の中で、リテラシーを合わせると良いと考える。</p>	東京都
<p>出産前に自費でPCR検査を受けなければならず費用負担が大きかったので、国や自治体が費用負担してほしい。</p>	東京都
<p>コロナの感染が怖かったので早めに里帰りをし、産後もしばらく里帰り先に滞在する予定なので、夫とはほとんど会えません。病院からも1か月健診まで県外の人との接触を避けるように言われているので、生まれても夫に赤ちゃんと会ってもらえません。</p> <p>この子の出産は人生の中で一度きりのことなのに。</p>	千葉県
<p>最も大変だったことは、出産後祖父母のサポートを受けられなかったこと。両親・義両親共に遠方に在住</p>	大阪府
<p>健診に行くだけでも、心身への負担が大きいと思う。夫が車で送迎できるよう、勤務の融通が効くようにできると良いと思う。</p>	東京都
<p>通っていた産院でコロナ患者が発生し、少し遠い病院に転院せざるを得なくなった。しかも転院先を探すのは自分たち。</p>	東京都
<p>妊婦自身は新型コロナ拡大に伴う在宅勤務措置や時差通勤措置を受けられますが、夫は妊婦がいることを理由にそれらを受けられない状況にあり、夫が職場で新型コロナに感染し、家庭内に持ち込んでしまうのではないかと不安で仕方ありません。</p>	東京都
<p>医療機関以外の場所で専門家立ち会いの基、通院出産がもっと一般的になっていくと良い</p>	東京都
<p>マスクを付けたままお産をしなければならないのがとても苦しかった。</p>	東京都

コロナ禍で様々な制約のある妊産婦・夫の現状について

以下抜粋にて一部紹介（過酷な現状編）

<p>計画無痛分娩予定ですが、数日前にPCR検査を受けることになっており、もし陽性なら指定感染症病院にて帝王切開になるとのこと。産院が変わる可能性があるのでかなり不安です。</p>	東京都
<p>まず妊婦はできるだけ安全な場所で人との接触を断つこと。夫は在宅勤務などを駆使してできるだけ人との接触を断つこと。夫側には、本人の意志によるものとするべきだが「妻が出産間近」というのを意思表示できるマタニティマーク的なものがあるとよいかな、とも思います。</p>	静岡県
<p>私の知り合いは乳腺炎になって病院にお世話になったそうですが発熱もしていてコロナの疑いをかけられてすぐ診察をして頂くことができず大変だったと聞きます。産婦では良くある病状なので細やかな対応ができるのではなかろうかと思いました。</p>	兵庫県
<p>誰に不満を言えるわけでないのが辛い。たまたまこの時期に妊娠出産をしているだけで、みんなができていた立ち会い出産や親族のサポートなどを受けられない可能性があるのが本当に辛い。出産予定日まで1週間を切っているが、正直前向きな気持は全く持てない。</p>	沖縄県
<p>非常事態宣言中の出産になってしまったため、立ち会いや面会が一切許されず、夫は我が子に1週間会うことができませんでした。一人で出産・産後の育児をスタートしたことはとても不安で、大変で淋しい思いをしました。バースプランなども夫婦で考えていましたが、まったくバースプラン通りではない出産で、入院直前に面会も立ち会いもできないことが決まり、ショックで数日泣いて過ごしていました。予定帝王切開でしたが、その時の大変さを夫と共有できなかったことは産後の夫婦関係にも影響していると思います(術後に痛みなどでとても大変なことだったということが、夫がその場にいなかったことで伝わらないので…)。夫に入院中接触することが禁止されていたので、出生届も入院中出すことが病院で禁止されました。産後は自治体や病院での産後ケアに関する講座やセミナーが軒並み中止で、家族以外話す機会もなく家にこもりきりなので精神的にも辛いです。</p>	東京都
<p>マタニティ旅行や里帰り出産はしないが安定期に帰省しようと考えていたができなかった。健診においては、助産師との接触を減らしたり、メジャーの使い回しを避けるためか子宮低長や腹囲の測定や浮腫のチェックなどが3月以降割愛されている。(どの程度重要な項目なのかかわからないが…)</p>	群馬県
<p>妹が先月出産しました。父親の立会いは不可、面会も数10分のみ。帝王切開手術中、酸素マスクの下にマスク着用だったらしく、これも不安要素だったそう。手術前にはPCR検査を検査棟で受けたらしく、これも不安だったそうです。(コロナウイルスを検査棟でもらわないか)</p>	東京都
<p>産休に入るまでコロナの不安を抱えて通勤、勤務しており、コロナの影響がよくわからないにも関わらず厚労省が妊婦に特別なリスクはないとしたおかげでテレワークの活用や産休の前倒し等、周囲の理解が進まなかった。現在では海外でコロナによる死産、早産が報告されており国には失望している。妊婦は無症状でもPCR検査ができるようになったが、疑陽性の可能性もあるなか産院から検査必須といわれ、産院の為とはわかってはいるが、検査を受け結果が出るまでストレスだった。もし陽性だったら、転院し、後遺症がつかく切らなくてもいい腹と子宮を切り、二週間は子とは会えないため重要な初乳を与えられず、母子隔離となる等、普通のお産とはかけ離れるため不安だった。妊婦や子の為に積極的に国や地方自治体が動いてくれたとは言い難く、少子化対策もやる気がないのだろうと不信感が芽生えた。</p>	埼玉県

コロナ禍で様々な制約のある妊産婦・夫の現状について

以下抜粋にて一部紹介（少し前向き編）

<p>7月中旬に2人目を産みました。立会い出産、入院中の面会禁止（夫のみ産後15分だけ可）だったので、1人で産む自信がなく、産後も実母からのケアが受けられないので体力を温存するため直前で無痛分娩にしました。結果的にこの選択は正解でした！陣痛中も医師から説明を聞いて納得したうえで医療行為を受けられ、痛み以外のお産の良い部分をじっくり味わうことができました。親子ともに必要以上に消耗することなく、産後の経過も良好です。コロナ禍だからこそオススメしたいです。</p>	東京都
<p>産後もあまり外出できる状況ではないし、やりたいと思っていたことは半分も出来ていませんが、子どもと自分の健康が第一なのでコロナ感染の危険を冒してまで無理して決行する必要はないと割り切った気持ちでいます。今妊娠中の方には、こんな世の中でも赤ちゃんを授かった幸せや新しい命を育む貴重な尊い経験が出来ることに感謝し、精神的にしんどくなったらパートナーや産院スタッフ等の信頼できる周りの人に話を聞いてもらいながら、母子の健康・安全第一で過ごしていただきたいと思います。（私はしんどい時は夫や産院スタッフに話を聞いてもらっていました）</p>	大阪府
<p>大変なことや制約のほうが多いが、ステイホームやテレワークの影響で、二人でゆっくり過ごす時間を出産前に過ごせたことは良かった。</p>	東京都
<p>制約があることで感染のリスクを軽減している病院であることには安心感を覚えたことも事実であり、不安と悲しさはあったが、結果良かったのかとも考えている。</p>	東京都
<p>とにかく全てが不安だったので、病院との密な連絡や、オンラインでの相談窓口がとても助かりました。また、コロナのこともあり、パートナーとの信頼関係はとても重要に感じました。</p>	神奈川県
<p>第1波と第2波の間に出産だったため、かろうじて短時間の家族面会ができました。緊急事態宣言下では家族面会もできず、NICUにも行けない状態だったであろうことから、制限こそあってもまだ良かったという思いです。また、そもそも行動に制約の増える妊産婦としては、ステイホームで社会全体も行動が制約されるため、ある意味孤立感ではなくみんな同じく不自由になった、という感覚がありました。</p>	福岡県
<p>コロナ以前が「普通」「当たり前」と思いすぎていないか、もっと気楽にできたらと思う。例えば立ち会い出産が出来ない、面会出来ない、とか。大丈夫。何年も入院するわけではないから。立ち会い出産が全てではないですよ。今までもしていない人もいますよ。夫婦、家族のきずな、父親の自覚を作るものはそれだけではないです。</p>	山梨県
<p>夫がリモートワークになって生活時間が整いよかった。 結局、産前産後は体を休めることが第一だと思うのでコロナだろうとなかろうとどこにも出かけない方がよい。</p>	東京都
<p>夫がリモートワークで家で過ごす日々が多くなったので、退院後の家事を担ってくれたり、赤ちゃんを順番であやしたり（そのおかげで睡眠を確保できた）、帰宅時間など気にせずに、毎日夕方頃に赤ちゃんをお風呂と一緒に入れたり、家にいるからこそ、慣れない子育てを一番大変な数週間、数ヶ月、一緒に力を合わせて子育てできる時間を作る事ができた。リモートで仕事をしているとは言え、何かあった時に、大人がもう一人家にいる事だけでも心強かった。</p>	東京都
<p>実際在宅勤務が当たり前となり、特に悪阻中などほとんどの家事を夫がやってくれたことは非常に助かった。自分も悪阻中でもほぼ休まず働けたのはテレワークのおかげだし、残業も通勤もせず規則正しい生活と疲れのない生活で順調な経過を送ることができた。自分の場合コロナによるメリットの方が大きかった。</p>	東京都

コロナ禍前後の妊娠出産に関するアンケート

Copyright © 2020 NPO法人 Fathering Japan、スリール株式会社 All rights reserved.

コロナ禍で様々な制約のある妊産婦・夫の現状について

以下抜粋にて一部紹介（少し前向き編）

<p>2020年1月に出産しました。まだ中国でコロナが広がり始めた頃で、他人事のように思っていたのを覚えています。日本で広がり始めた頃に1ヶ月健診や自宅へ帰宅等したため、ワンオペで引きこもることしか出来ず、不安でした。ただ、オンライン飲み会やライブ配信等、通常小さい子どもがいると我慢せざるを得ない娯楽を自宅で楽しむことが出来るような世の中になった事は、コロナ禍で唯一良かったと思えたことです。自宅で子どもがいても息抜きができるコンテンツが今後も増えていくといいなと思います。</p>	<p>埼玉県</p>
<p>コロナ禍で在宅ワークが進んだり、事業が減るなどして、逆に主人が休暇を取得しやすい雰囲気だった。</p>	<p>京都府</p>
<p>出産直前に分娩時の立ち会いや入院時の面会が禁止になり、心の準備ができないまま出産を迎えてしまったが、看護師さんや助産師さんの温かいサポートがありとても心強かった。</p>	<p>千葉県</p>
<p>先日第3子を出産しましたが立ち会い、面会禁止で生まれました。当事者としてはとても大変でしたが周りの人も同じ条件で出産、入院をしているので入院中に新生児と2人の生活だったが外部の人が極力入ってこないのが安心感があった。 制限つきで面会や立ち会いが認められていたら施設に人の出入りが多くなるので正直不安だった。 実際に会えない分、スタッフが写真や映像についての声かけをしてくれるとありがたいと思います。</p>	<p>東京都</p>
<p>緊急事態宣言下で出産しましたが、医療現場の方々がとても親切に気遣ってくださったので、出産そのものに対する不安はあまりありませんでした。産後の面会も全面中止でしたが、むしろ新生児と静かに過ごすことができ、回復に専念できました。個人的にはコロナによって、慣例的に行われていた産後の面会というものがなくなることで、産後の母体にとって合理的な過ごし方ができたと感じています。</p>	<p>東京都</p>
<p>第一子9月出産予定です。 妊娠がわかった時にはコロナが始め、2?3月の検診では検温がマスク、4月以降には立ち会いや面会が全面禁止になりました。 里帰りも叶わず、出産まで親にも会えず、産後もいつ赤ちゃんと対面させるべきかわかりません。 厚労省からは、妊婦だからといって重症化することはないと言われていますが、垂直感染の可能性や胎盤からの感染は実際に海外で認められています。 また、胎児死亡の例もありますし、母親の命の危険もあります。 ただひたすら自衛するしかない日々正直疲れていますが、正しい情報を伝えるというシステムがこの国には足りていません。だから自分でキャッチアップするしかないのです。知識をつけるしかないのです。 夫も最大限努力してくれていますし、両家の家族もこの状況を理解してくれています。そのかわり、どんどん孤立していくのではないかと懸念があります。誰にも頼れずに産後うつになるのではと思います。 こういった状況だからこそ、自治体からの産後ケア事業は強化してほしいし、民間のシッターさんを気軽に利用できるようになって欲しいです。 今は社会が変わるチャンスだと思います。母親だから我慢が当たり前ではなく、正しい情報を持ってリスクを理解したうえで、社会で子育てしていく、そういう仕組み作りが虐待や貧困をも防ぐと思います。</p>	<p>埼玉県</p>

コロナ禍で様々な制約のある妊産婦・夫の現状について

以下抜粋にて一部紹介（少し前向き編）

<p>新生児期間は、夫が完全に在宅勤務だったため、ある意味ラッキーで、夫は授乳以外の育児は完全にマスター。</p>	大阪府
<p>旦那は完全リモートワークになり、むしろ妊娠期間一緒にいれる時間が増えて嬉しい。</p>	東京都
<p>はじめは出歩くことも控えていましたが、逆に人がいつもより少なく妊婦がゆっくり歩いても迷惑にならない道が多いため今は普通に外出しています。マスクや消毒などできる範囲で自衛して過敏にならずに過ごすことにしています。 幸い旦那が車を持っているので、病院なども安心して行けますが、常に電車移動だったら大変だと思います…。 妊婦に配慮したリモートや休業への企業への補助金が出たのは、自分から申請しやすくありがたかったです。</p>	東京都
<p>妊娠の経過も家庭環境も本当に千差万別の中で、もっと?だったら良かったのに、と変えられないことを嘆くのは、自身にとって良いことはなにも無いと思います。 いま、この状況をどう前向きに捉えるか、もし一だったら、をいかに捨てて、目の前の準備を楽しむか。そんなメンタルコントロールを、すべての不安の中にいる妊産婦さんが、出来るようになるといいなと思います。</p>	東京都

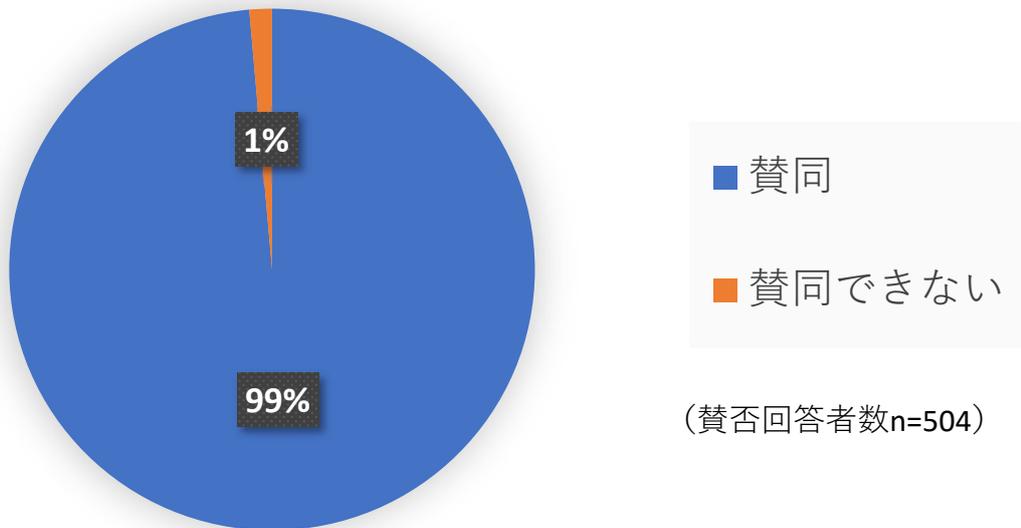
以下抜粋にて一部紹介（アイデア・要望編）

<p>私が出産したクリニック(手稲あけぼのレディースクリニック)では比較のおおらかな対応をしていただけた。妊産婦の心の健康のためにも、こういった対応が広がって欲しい。</p>	北海道
<p>夫の育児休暇に関しては、通常の妊娠期間よりはるかに神経質に生活しなければならないことを日本中が企業を含めて理解をしているはずなので、妊婦がいる家庭の夫には企業のほうから積極的に育休取得を呼びかけるべきだと思う。</p>	埼玉県
<p>何も医療従事者だけが、サポートを頑張るのではなく、日常の中で駅やスーパーなど困ってる妊産婦がいたら「手伝いますよ」の一言を言える勇気を持つことが大切。</p>	東京都
<p>出産してすぐに緊急事態宣言に入りました。産後の母子学級等が全て中止となりました。そのため、同じ年齢を持っているお母さんと話す機会がなくなりました。なにかしら、オンラインでもいいので、産後のコミュニケーションが取れる機会があればいいなと思います。</p>	東京都
<p>パートナーの勤め先も配慮が必要なのではないかと思います。例えば妻の産前産後1ヶ月はできるだけ在宅勤務にして感染リスクを減らすなど。</p>	神奈川県
<p>自分は双子だったので、二人同時に見れないときは実家とスカイプを繋いで一人をあやしてもらっていた。</p>	東京都
<p>産院に入院中は、集団での指導（授乳や沐浴、調乳など）が中止になり、動画を見てからの個別指導になったが、産後はスマホの画面を見るのも辛くしんどかった。 夫や実母が事前に産後うつについて映画を見て理解してくれていたので、産後は赤ちゃんのお世話と体力回復に注力できた。事前に具体的な事例を含めて産後うつについての理解（オンラインでできるもの）を深めておくことをおすすめする。</p>	千葉県
<p>助産師YouTuberひさこさんのチャンネルおすすめです。</p>	東京都

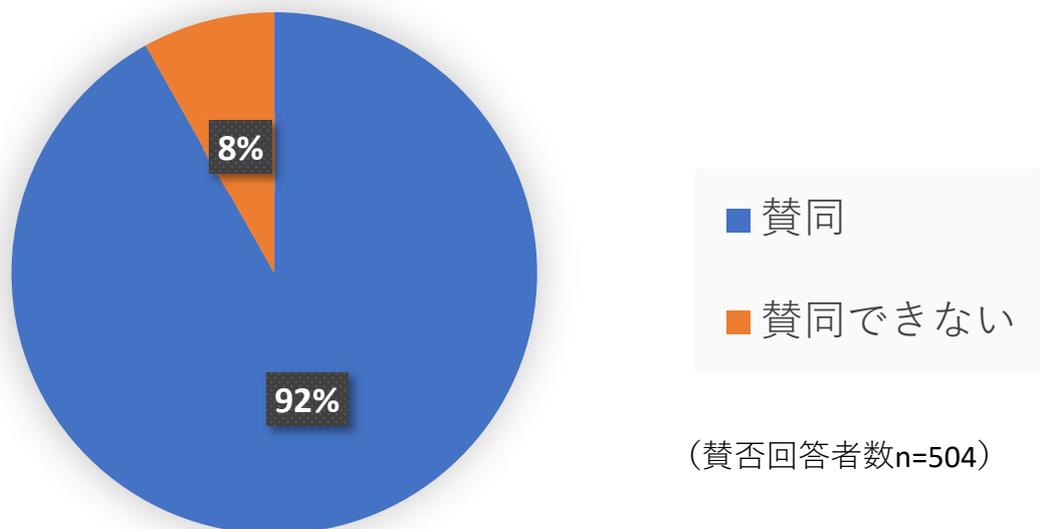
オンライン両親学級、新しい立ち合い出産の賛同率

アンケートとは別に、新しい生活様式の中でも新しい命を家族で迎えられる環境として、「第一子を迎えるご家族へのオンライン両親学級の提供」「感染予防対策を工夫した上での立ち合い出産の実現」の実現について同意いただけるかを尋ねたところ、どちらも90%を超える賛同があった。

第一子を迎えるご家族へのオンライン両親学級の提供



感染予防対策を工夫した上での立ち合い出産の実現



オンライン両親学級、新しい立ち合い出産の自由記述

賛同者の自由記述

産前産後のパートナーの良いところ悪いところは一生引きずります。どれだけ挽回しても深く深く残ります。どうかひとつでも幸せな家庭を築ける家庭が増えていけますように…

この時期での妊娠出産、本当に不安でいっぱいだと思いますが、赤ちゃんは思っている以上に強くたくましいです(^_^)だから、何があってもどんな状況でも絶対大丈夫と自分自身と赤ちゃんを信じてこの状況を乗り越えてください。そして、不安なことや心配なことは1人で抱え込まずに、パートナーの方や周りの方に話してみてください。話すことで少しスッキリすると思います。残りのマタニティライフを楽しく幸せな気持ちで過ごせますように。毎日暑いので、お身体に気をつけられて元気な赤ちゃんを産んでください。応援しています。

がんばってください！コロナでも妊娠出産は通常通りにしてほしいですね！両親学級や立ち合いは必須です！妊娠出産の恨みはかなり強いですよー。トラウマになります。命の誕生をコロナなんかで邪魔されたくないです！

どうか、アンケートの結果が省庁の方や議員さんに届き、政策に反映されるよう祈っています。子育て環境をよくしていくのはそのような一歩一歩だと思います。

妊娠中、我が子が元気でいてくれるかで不安もある中、支えになるのは、パートナーや地域のつながりだと感じています。もちろんリアルでの両親学級が1番ですが、オンラインでも同等の満足感や安心感を得られるとおもいます。我が子と対面できる一生に一度の機会、それぞれの家族の希望に寄り添えるようになったらいいなとおもいます。

私は立ち合い出産希望派で、実際にして、良かったと思っています。が、あくまでも母子や他の母子へのリスクを配慮の上で、可能であれば賛同します。重要ではあるけれども、絶対ではないと思っています。

これから出産される方へ、きっと不安な中過ごされているかと思います。出産予定の病院のスタッフが信頼できるかどうかで違ってくると思います。普段から担当医や看護師の方とのコミュニケーションを取り、少しでも安心して出産できることを願っています。出産も大変ですが産後の子育ても大変です。夫や周りに協力してもらいながら、子育てを乗りきってください。応援しています。

第一子だけでなく、何人目でも家族、周りのサポートが受けられるように、工夫して欲しいです。

など多数

立ち合い出産に対する自由記述

個人的には、立ち会い出産は手段であって目的ではないので、コロナ禍で立ち会い出産の方法を支援するよりは、夫が産後の妻をケアする心構えの啓蒙に力を入れた方が有意義だと思います。帝王切開では立ち会えませんし。

立会出産は大切ではありますが、医療従事者の負担を増やす恐れが気になります。

「万全の」感染予防対策が科学的に証明されない中での立ち会い出産には賛同できません。

コロナ禍の中、安全に出産できる環境を作ってくれた医療従事者に本当に感謝です。医療従事者を守って、感染拡大を防ぐために、立会出産の制限、入院中の面会の制限は必要で、医療従事者を守る事が、お母さんと赤ちゃんを守る事に繋がります。

など

アンケートフォーム

コロナ禍前後の妊娠・出産の状況 アンケート

コロナ禍での妊娠・出産の状況、どう思う？
妊産婦(夫)・子育て世帯全員アンケート

現在、妊娠中のご自身およびご家族、すでに子育て中の父親母親の皆様へ

新型コロナウイルス禍において、これまで妊娠出産期に平時であれば当たり前になっていたことが様々な制約により実現が難しくなっています。例えば、妊婦検診へのパートナー同伴の禁止、両親学級の中止や延期。出産当日はパートナーの立ち合いができないどころか、マスクを装着しての出産を余儀なくされる病院もあるとのこと。

これから長年続いていく子育てのスタートを一緒に経験できず、パートナーが置き去りになることで、その後の子育てを母親一人だけで行うことも起こりえます。

そこで、コロナ禍前後の妊産婦(夫)の環境変化を把握すべく、NPO 法人ファザリング・ジャパンとスリール株式会社で共同アンケートを実施することにいたしました。

これから誕生する赤ちゃんを迎える家族に必要な経験は何か、その経験の機会とコロナ禍における安全確保の両立はどんな工夫で実現できるのか。

現在の妊産婦(夫)だけではなく、今まで子育てを経験した全ての方に答えていただき、新しい生活様式の中でも安心して新しい命を家族で迎えらる環境をみなさんと一緒に実現していきたいと考えています。ぜひ当アンケートにご協力ください。

●アンケート期間:2020/8/11~8/23

●アンケート対象者:妊娠・出産を経験した子育て家庭(年齢は問いません)、
緊急事態宣言下・コロナ禍での妊娠・出産を経験している家庭

●目的:コロナ禍での妊産婦(夫)の実態を調査しながら、子育て経験者の意見を聞くことで、新しい生活様式の中でも安心して新しい命を家族で迎えらる環境を実現する提言を行う。

注)コロナ禍とは、2020年3月～現在(2020年8月時点)を指しています。

注)緊急事態宣言下とは、2020年4月7日～5月25日を指しています。

注)このアンケートは、個人を特定することや個人の内容については配慮し、公表などはいたしません。

Q1 あなたは

- 妊婦 妊婦のパートナー(妊夫) 母親 父親 その他 その他(自由記述)

Q2 あなた(あなたのパートナー)の第一子の出産(予定)時期

- 2020年8月以降(現在妊娠中) 2020年3月~7月(緊急事態宣言下を除く・コロナ禍に出産された方)
- 2020年4月~5月(緊急事態宣言中に出産された方) 2017年~2020年2月(現在第1子が3歳までの方)
- 2016年以前(現在第1子が4歳以上の方)

Q3 あなたが、あなたの(あなたのパートナーの)第一子妊娠期間中に

・「希望」しているもの(していたもの)をすべて回答ください

- 妊婦健診にパートナーや家族の同伴 病院・産院等の両親学級等を受講 自治体の両親学級等を受講
- 民間企業・団体等の両親学級等を受講 パートナーや家族の立ち合い出産 里帰り出産
- 出産後の産後ケアサポート(親族含む) マタニティ・エクササイズ(運動・ヨガ・スイミング)
- 産後入院中のパートナーや家族の面会
- 父親の育児休暇・休業取得(家族をサポートする目的で取得した有給休暇含む)
- その他 その他(自由記述)

・「実現」できそうなもの(できたもの)をすべて回答ください

- 妊婦健診にパートナーや家族の同伴 病院・産院等の両親学級等を受講 自治体の両親学級等を受講
- 民間企業・団体等の両親学級等を受講 パートナーや家族の立ち合い出産 里帰り出産
- 出産後の産後ケアサポート(親族含む) マタニティ・エクササイズ(運動・ヨガ・スイミング)
- 産後入院中のパートナーや家族の面会
- 父親の育児休暇・休業取得(家族をサポートする目的で取得した有給休暇含む)
- その他 その他(自由記述)

Q4 上記 Q3 について、希望していたのに実現できなかった(できそうにない)主な理由は何ですか？(複数回答)

- 予定が合わないから 周囲に通える場所がないから 体調がよくなかったから 仕事が忙しいから
- 家族や周囲から理解が得られないから コロナ禍で主催機関等が中止・延期した/予定だから
- コロナ禍で感染が怖い為に自主判断したから その他 その他(自由記述)

Q5 次の各項目について、自分自身、夫婦関係、家族にとってあなたが思う重要度5→1を回答ください。

1 妊婦健診にパートナーや家族の同伴

- 重要 5 4 3 2 1 重要でない 理由:自由記述

2 病院・産院等の両親学級等を受講

- 重要 5 4 3 2 1 重要でない 理由:自由記述

3 自治体の両親学級等を受講

- 重要 5 4 3 2 1 重要でない 理由:自由記述

4 民間企業・団体等の両親学級等を受講

- 重要 5 4 3 2 1 重要でない 理由:自由記述

5 パートナーや家族の立ち合い出産

- 重要 5 4 3 2 1 重要でない 理由:自由記述

6 里帰り出産

- 重要 5 4 3 2 1 重要でない 理由:自由記述

7 出産後の産後ケアサポート(親族含む)

- 重要 5 4 3 2 1 重要でない 理由:自由記述

8 マタニティ・エクササイズ(運動・ヨガ・スイミング)

- 重要 5 4 3 2 1 重要でない 理由:自由記述

9 産後入院中のパートナーや家族の面会

重要 5 4 3 2 1 重要でない 理由:自由記述

10 父親の育休(有給休暇含む)取得

重要 5 4 3 2 1 重要でない 理由:自由記述

Q6 次のうちコロナ禍で中止や延期等になっている場合、工夫してでも実施したほうがよいとあなたが思うものを回答ください(複数回答)

- 妊婦健診にパートナーや家族の同伴 病院・産院等の両親学級等 自治体の両親学級等
- 民間企業・団体等の両親学級等 パートナーや家族の立ち合い出産 里帰り出産
- 出産後の産後ケアサポート(親族含む) マタニティ・エクササイズ(運動・ヨガ・スイミング)
- 産後入院中のパートナーや家族の面会
- 父親の育児休暇・休業取得(家族をサポートする目的で取得した有給休暇含む)

Q7 上記 Q6 において、コロナ禍でも実施できる工夫・アイデア・ご存知の事例があれば具体的に教えてください。

例)〇〇市では、両親学級のオンライン化を〇〇の方法で実施 / 〇〇病院では、PCR 検査後、防護服を着たうえでの立ち合い出産

Q8 このコロナ禍で様々な制約のある妊産婦・夫の置かれている現状について、思うところがあれば自由に記述ください。

例)コロナ禍で最も大変だった経験や不安なこと / コロナ禍の妊産婦・夫への具体的な支援方法・アイデア

Q9 最後に、あなたのことを教えてください。

(1)現在住んでいる都道府県

(2)第一子を出産する・した都道府県

(3)年代

10代 20代 30代 40代 50代 60代以上

(4)現在の職業

- 1 会社勤務(一般社員) 2 会社勤務(管理職) 3 会社経営(経営者・役員)
- 4 公務員・教職員・非営利団体職員 5 派遣社員・契約社員 6 自営業(商工サービス)
- 7 SOHO 8 農林漁業 9 専門職(弁護士・税理士等・医療関連) 10 パート・アルバイト
- 11 専業主婦・主夫 12 学生 13 無職 14 その他の職業

アンケートは以上です。ご回答ありがとうございました。あわせて以下にもご回答お願いいたします。

●新しい生活様式の中でも安心して新しい命を家族で迎えられる環境として、少なくとも私たちは以下の2点の実現が重要だと考えています。同意いただける項目があれば、選択いただき、賛同の表明をお願いします。

- 第一子を迎えるご家族へのオンライン両親学級の提供
- 感染予防対策を工夫した上での立ち合い出産の実現
- 上記には賛同できない

自由記述